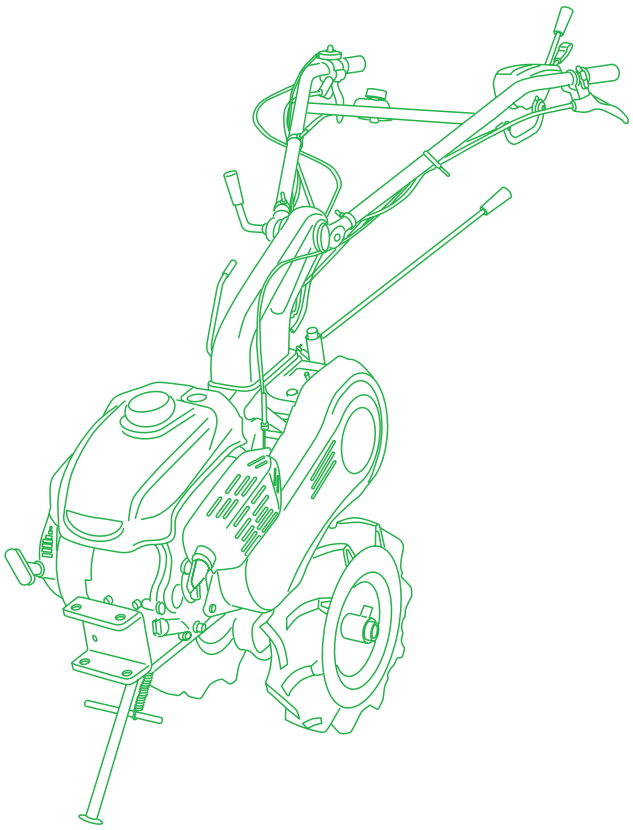
管理機

取扱説明書

MM458AS・558AS・658AS・708AS
MM758AS・858AS・1058AS



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは管理機をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。

●はじめに

この取扱説明書は本機の正しい取扱い方と簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書をいっしょにお渡しください。

・本書では安全上重要な事項を⚠で示し、次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、使用者がケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお、本機の品質・性能向上あるいは安全のために使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますのでご了承ねがいます。

●本機の使用目的について

・本機はほ場での耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や安全装置の取外しなどの改造は行わないでください。
・本機を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき、こんなことが知りたいとき、ここを見てください！

この取扱説明書は次のように構成されています。まず、**安全作業のために** からお読みいただき、基本事項から操作、点検まで本機の正しい取扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために安全に関する基本事項、表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用前に 使用前に知っておかなければならないことは？

本機の**概要「仕様（装備）」**などについて説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称、操作レバー、装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた 管理機を動かすには？

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動、走行のしかた、自動車への積み降ろしのしかたなどを説明しています。

作業のしかた ほ場作業を行うには？

管理機作業の基本操作を説明しています。作業機の条件や、ほ場条件にあった調整をして、上手な作業をしてください。

手入れのしかた 本機を長もちさせるには？

本機をいつも正常な状態に保つために手入れのしかたについて説明しています。
「定期点検整備表」に従って保守、点検してください。

長期格納のしかた 本機を１ケ月以上格納するときは？

本機を長期間格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったときは？

作業中のトラブルや不調、異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

付　　表 諸元・関連部品は？

本機に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために……（安全作業説明編）

ご使用前に ……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 2

各部のはたらき ……3

1．本機方向説明と各部の名称…… 3
2．運転装置の取扱い…… 4
1．エンジンコントロール関係…… 4
2．運転装置関係…… 6

運転のしかた ……11

1．運転前の点検……11
2．エンジンの始動と停止……12
1．エンジン始動のしかた……12
2．エンジン停止のしかた……14
3．発進・旋回・停車のしかた……14
1．発進のしかた……14
2．旋回のしかた……16
3．停車のしかた……16
4．自動車への積み降ろし……17
1．自動車・アユミ板について……18
2．本機の取扱い……18

作業のしかた ……19

1．作業前の準備……19
1．輪距の調節……19
2．作業機の取付け……21
3．ハンドルの調節……21
4．主変速レバーの回動……22
2．ほ場作業のしかた……23
1．ほ場への出入りのしかた……23
2．作業に適した速度の選びかた……23
3．上手なほ場作業のしかた……25

手入れのしかた ……26

1．定期点検整備……26
2．給油・注油のしかた……27
1．燃料の補給……28
2．エンジンオイルの点検・交換……28
3．ミッションケースのオイル点検・交換…29
4．エアクリーナーのオイル補給……29
5．注油箇所……29
3．各部の点検と掃除のしかた……30
1．エアクリーナーの掃除……30
2．燃料ストレーナーの掃除……30
3．点火プラグの点検と掃除……30
4．リコイルスターターの掃除……31
5．燃料ホースの点検……31
6．タイヤの点検……31
4．各部の点検と調整のしかた……32
1．主クラッチの調整……32
2．ベルトガイドの調整……33
3．サイドクラッチの調整……33
4．駐車ブレーキの調整……34
5．コントロールケーブルの調整……34
6．ハンドル回動レバーの調整……35
7．ハンドルワンタッチ上下レバーの調整…36

長期格納のしかた ……37

1．本機の掃除と洗浄……37
2．エンジンの手入れ……38
3．格納……39
4．再使用するときは……39

不調時の処置 ……40

1．エンジン部……40
2．本機……42

付　　表 ……43

1．主要諸元……43
2．主な消耗部品……44
3．潤滑油について……46
4．付属部品一覧表……46

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ
1．安全作業のしかた……（安-1）
⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）
⚠安全作業のポイント……（安-2）
⚠作業前の一般的な注意事項……（安-3）
⚠点検・整備および掃除をするときは……（安-4）
⚠エンジンを始動するときは……（安-5）
⚠移動をするときは……（安-6）
⚠自動車への積み降ろしをするときは……（安-7）
⚠ほ場で作業をするときは……（安-8）
⚠１日の作業が終わったら……（安-10）
⚠長期格納するときは……（安-10）
2．表示ラベルについて……（安-11）

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので、よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお、この項の安全作業の説明は**管理機全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので、よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。

- ●酒気をおびた人
- ●妊娠している人
- ●16才未満の人
- ●指導者のいない運転未熟練者
- ●過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な運転操作ができない人

◆運転する人は健康に気をつけて適切な睡眠と休けいをとってください。

➡ 誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆本機を他人に貸す場合は取扱説明書もいっしょに渡して、安全な作業ができるよう説明してください。

◆本機の運転操作はよく練習し、じゅうぶんに慣れてから作業してください。

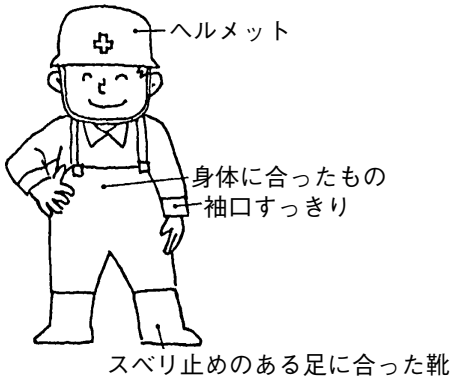
◆本書の内容が理解できない人や、子供には絶対運転させないでください。

➡ 借りた人が不慣れなため思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。

➡ 下図のような服装は衣服が回転部に巻込まれたり、足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。

［良い例］



［悪い例］



⚠ 安全作業のポイント

●取扱説明書、本機のラベルをよく読んでから運転してください。

始業・点検　準備点検

●平坦な場所に本機を置きます。
●エンジン、マフラー、燃料タンク回りを掃除します。
●燃料ホース、電気配線を点検します。
●給油・点検はエンジンが冷えているときに行います。
●各部の締付け、セットピンの脱落はないか確認します。
●燃料補給時は火気を近づけるのは厳禁です。
●クラッチ、レバー関係が働くか点検します。
●取外したカバー類は全て取付けます。
●改造は厳禁です。

エンジン始動

●各操作レバーは取説に従い始動時の位置にします。
●本機の周囲から人を遠ざけます。
●屋内やハウスでの始動は、窓や戸を開けて換気をします。

自動車への積み降ろし

●自動車は荷台に天井のない車を使用します。
●アユミ板は強度、幅、長さ、すべり止め、フックのあるものを使用します。
●アユミ板は隙間がないものを使用します。
●アユミ板は自動車の荷台に平行にかけ、フックが外れないことを確認します。
●周囲を確認し、本機の回りに人を近づけるのは厳禁です。
●積込みは前進、積降ろしは後進で低速で行います。（ただしタイヤを装着してない小型の機械はエンジンを停止し、積込みは、後進方向で引き上げ、積降ろしも後進方向で引き降ろします）
●アユミの上ではクラッチ操作や変速操作は厳禁です。

移　　動

●タイヤのセット幅を広げて機械を安定させます。
●ハンドル回動式の場合は正規の位置で行います。
●発進は周囲を確認して行います。
●ロータリーなどの作業機を回転したまま走行しないようにします。
●発進、停止、旋回は低速で行います。
●人や物を本機にのせるのは厳禁です。
●公道および夜間の移動は自動車にのせて行います。

狭い農道、不整地、傾斜地の移動

●スピードを落として走行します。
●下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使います。
●傾斜地ではサイドクラッチや主クラッチを切ったり、変速レバーを《中立》にするのは厳禁です。
●車を避けるとき、端に寄りすぎないようにします。
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所の走行は避けます。

停車・駐車

●平坦な場所でエンジンを停止します。
●傾斜地の駐車は厳禁です。（やむをえないときは輪止めをします）

ほ場作業　ほ場の出入り

●低速であぜに対して直角に出入りします。
●高あぜ、溝越え、急傾斜は隙間がなく、すべらない処理のしてあるアユミ板を使用します。
●上がるときは前進、降りるときは後進で足元を確認して行います。
●ロータリーなどの作業機を回転させたままの出入りは厳禁です。
●あぜがくずれないか確認しゆっくり出入りします。

ほ場での作業

●人を本機のそばに近づけるのは厳禁です。
●旋回は周囲、足元を確認して行います。
●あぜ際での作業は枕地を十分とって旋回します。
●急傾斜地での作業は厳禁です。
●後進するときはエンジン回転を下げて背後の障害物を確認しゆっくりと後進します。
●後進はハンドルが持ち上がるのでしっかり押さえて後進します。
●疲れを感じたら無理に作業を続けず休憩をします。
●本機はライトが付いていないので夜間や暗い所での作業は厳禁です。

作業途中の点検

●運転直後のエンジン、マフラーなど高温部に触れるのは厳禁です。
●ロータリーなどに巻付いた草や土を取除くときはエンジンを停止して行います。
●作業機の脱着は平坦な場所で行います。
●ロータリーなどを外した場合はPTOキャップをつけます。
●取外したカバーはすべて取付けます。

格　　納　1日の作業が終わったら

●平坦な場所に置きエンジンを停止します。
●高温部が冷えてからエンジン、マフラー、燃料タンク回りを掃除します。

長期格納

●燃料コックレバーを「止」にし、気化器内の燃料を抜取ります。
●タイヤに輪止めをします。
●カバーはエンジンが冷えてからかけます。

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆本機はほ場での耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。

➡ 思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆本機や作業機の上に人や物を乗せないでください。人を近づけないでください。

◆共同作業者がいるときは、互いに注意してください。

➡ 思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆本機は改造しないでください。

➡ 改造すると本機の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。

⚠警告 ◆管理機を使用する前後に点検を行い、異常箇所は直ちに整備してください。

◆シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。

➡ 整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。

◆換気が不十分な所では暖機運転や作業は行なわないでください。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

⚠点検・整備および掃除をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆本機・作業機の点検・整備・掃除は平坦な場所でエンジンを停止してから行なってください。

➡ 傾斜地では本機が動きだし思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠危険

◆給油、注油、点検時はエンジンを停止させてください。エンジン回転中やエンジンが熱い間は給油、注油をしないでください。

◆燃料補給は火気のない所で行なってください。くわえタバコなどは厳禁です。

●燃料を補給したときは燃料キャップを締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

●エンジン始動前に給油、注油、各部の点検を行なってください。

➡ 燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因となることがあります。

⚠警告

◆各部のボルト・ナットのゆるみ、セットピンの脱落、損傷はないか確認してください。

●クラッチ、レバー関係などの操作部は確実に働くように調整してください。

➡ 思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠警告

◆エンジン、マフラー、燃料タンクまわりにワラクズやゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取除いてください。

➡ 火災事故を引起こすことがあります。

⚠注意

◆点検整備に必要な工具類は適正な管理をし、正しく使用してください。

◆本機には点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。

➡ 整備不良で事故を引起こすおそれがあります。

⚠注意

◆点検・整備などで外したカバーなどは全て取付けてください。

●カバーは正しく取付けてください。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠警告

◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか、はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。

➡ ショートしてヤケドや火災の原因となります。

⚠警告

◆タイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。

●タイヤの空気圧は入れすぎないでください。

◆タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。

◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」に相談してください。（特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。）

➡ タイヤに空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と、タイヤが破裂し死傷事故につながることがあります。

⚠エンジンを始動するときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆始動する前に周囲を確認し、本機の周囲から人を遠ざけてください。

➡ 人が近づくと傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆屋内やハウス内などでの始動は窓や戸をあけて換気を十分にしてください。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

⚠警告 ◆主クラッチの《切》、主変速レバーの《中立》、ロータリー変速の《中立》、作業機装着時は作業機変速の《中立》を確認してください。

◆始動は正しい姿勢で行なってください。

- 主変速レバーが《中立》になっているか手で動かして確認してください。
- 足場の不安定な場所での始動は行わないでください。やむをえない場合は本機を固定し、水平な状態で行なってください。
- 周囲を確認し、合図してから始動してください。

➡ 変速やクラッチが入っていると本機が急に動き出し人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠警告 ◆暖機運転は主クラッチを《切》、主変速レバーを《中立》、ロータリー変速の《中立》、作業機装着時は作業機変速を《中立》にして、平坦な場所で行なってください。

➡ 本機が動き出し人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠移動をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆タイヤのセット幅を広げて本機を安定させてください。

◆ハンドル回動式の場合は正規の位置にセットしてください。

➡ バランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆発進するときは本機の回りから人を遠ざけて、低速で発進してください。

●前後左右を確認し、後進するときは屋内の支柱など背後に障害物がないことを確認して行なってください。

●ロータリーなどの作業機を回転させたまま走行しないでください。

➡ 傷害事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆急発進、急停止、急旋回はしないでください。

●移動は歩くスピードで、不整地は低速で行なってください。

●旋回するときは低速で行なってください。

➡ 転倒事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆人や物を本機にのせないでください。

●道のりが遠くても、その他どんな場合でも人を作業機の上にのせないでください。

◆公道および夜間の移動は自動車にのせて行なってください。

➡ 傷害事故の原因となることがあります。

⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。

●車を避けるとき、端に寄りすぎないでください。

●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しないでください。

●雨天、雨あがりのときは低速で慎重に移動してください。

➡ 路肩がくずれ、横転事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆傾斜地では主クラッチを操作しないでください。

◆傾斜地では主変速レバーを操作しないでください。

●坂にさしかかったら、いったん本機を止めて変速を低速に入れ変えてください。

●下り坂では低速でエンジンブレーキを使用して移動してください。

➡ エンジンブレーキがきかなくなり事故の原因となります。

⚠警告 ◆停車、駐車をするときは平坦な場所に置き、エンジンを停止してください。

●傾斜地には駐車しないでください。やむをえず傾斜地に止めるときは本機の安定を確認し、輪止めをしてください。

➡ 本機が動き出して事故の原因となります。

⚠警告 ◆傾斜地ではサイドクラッチ操作をしないでください。

●ハンドル操作で旋回してください。

➡ サイドクラッチを操作すると反対方向に旋回することがあり転倒事故を引起こすことがあります。

⚠自動車への積み降ろしをするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆自動車は荷台に天井のない車を使用してください。

◆荷台から本機がはみ出さない自動車を使用してください。

- 自動車は変速を「後進」(MT車)、「P」(AT車）に入れ、駐車ブレーキをかけ、輪止めをします。

➡ 思わぬ事故を引起こします。

⚠警告 ◆アユミ板は強度、幅、長さ、すべり止め、フック付き、耕うん爪が引掛からないものを使ってください。

- 本機の質量に耐える強度のもの（金属製）を使用してください。
- 幅がタイヤ幅以上で、長さが荷台高さの４倍以上あるすべり止め付、フック付のものを使用してください。
- アユミ板は隙間がないものを使用してください。

➡ アユミ板が外れたりして転倒事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆アユミ板を荷台に平行にかけてください。

- アユミ板は荷台に対して真っ直ぐにかけてください。
- 荷台にかけた端が外れないようにフック付のアユミ板を使用してください。
- 積込みは前進、積降ろしは後進で低速で行ってください。（ただしタイヤを装着してない小型の機械はエンジンを停止し、積込みは後進方向で引き上げ、積降ろしも後進方向で引き降ろします）
- 本機の回りに人を近づけないでください。

➡ バランスがくずれて転倒事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆アユミの上ではサイドクラッチを操作したり主クラッチを切らないでください。

- 途中で操作する必要がないよう左右位置や平行を確認し、低速で行ってください。
- 車軸にローターを装着しているときはタイヤに交換してください。
- 水田車輪や耕うん爪・尾輪などをひっかけないようにしてください。

➡ 進路変更すると急旋回して、転倒事故を起こすことがあります

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆急傾斜、溝越え、高あぜのあるほ場への出入りは隙間がなく、すべらない処理がしてあるアユミ板を使ってください。

◆あぜ越えは低速であぜに対して直角に出入りしてください。

●上りは前進、下りは後進で足元を確認しながら低速で行ってください。

●あぜがくずれないか確認しゆっくり行なってください。

➡ バランスをくずしたりして転倒事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆作業中は本機のそばに人を近づけないようにし、わき見運転や手ばなし運転をしないでください。

◆いつでも主クラッチが切れる姿勢で運転してください。

➡ 傷害事故の原因となります。

⚠警告 ◆ロータリーなどの作業機を回転させたままほ場への出入りをしないでください。

●耕うん時以外はロータリーなどの作業機を停止させてください。

➡ 思わぬ事故となることがあります。

⚠警告 ◆PTO軸を使用しないときは、PTO軸にグリスを塗りキャップを取付けてください。

➡ 巻き込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆旋回するときは周囲や足元を確認し、あぜの上にあがったり、土手ぎりぎりで旋回しないでください。

●あぜ際での作業は枕地を十分にとって余裕をもって旋回してください。

●足にあった長ぐつ、田から足が抜けやすいくつを着用してください。

➡ 傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆後進するときはエンジン回転を下げて背後の障害物の位置を確認し、ゆっくりと行なってください。

●ハンドルがはね上がらないようにしっかりとハンドルを握って低速で後進してください。

➡ 後進するときは車輪の回転でハンドルがはね上がり、思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆ロータリーなどに巻付いた草や土を取除くときやロータリー爪の交換をするときは、平坦な場所でエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

➡ 巻き込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラスなどを取除いてください。

◆作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、損傷を調べてください。
損傷したまま再始動しないでください。

➡ 回転している爪に異物が当たると強い力で異物が飛び散り、傷害事故を起こしたり、また損傷したままの本機を使用すると思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆夜間作業を行わないでください。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆急傾斜地では作業をしないでください。

➡ 転倒事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆作業途中で点検するときは高温部に触れないでください。

●点検、掃除はエンジンを停止し、高温部は冷えるまでは直接触れないでください。

➡ ヤケドすることがあります。

⚠警告 ◆ハウスや小屋の中で作業するときは背後や支柱際の障害物を確認しながら行なってください。

●支柱やカモイに頭を打ったりハンドルを引っかけたりしないようにしてください。

●支柱際の作業での旋回はハンドルを壁と反対側の広い方に回して旋回してください。

➡ 本機と支柱の間にはさまれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い、掃除をしてゴミなどを取除いてください。

- ●高温部が冷えてからエンジン・マフラー・燃料タンク回りのゴミなどを除去・掃除を行なってください。
- ●掃除後指定箇所に注油してください。

➡ 火災の原因となることがあります。

⚠警告 ◆カバーをかける場合はマフラーやエンジンが冷えてから行なってください。

➡ 火災事故を引起こすことがあります。

⚠長期格納するときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆各部を水洗いして平坦なところでスタンドを出し、本機を安定させて格納してください。

- ●故障箇所、爪の摩耗があれば早目に修理、交換してください。
- ●ボルトやナットがゆるんだ状態であれば直ちに締めつけてください。
- ●タイヤに輪止めをして変速を「低速」に入れておいてください。

➡ 思わぬ事故の原因になることがあります。

⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。

- ● 1 年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。

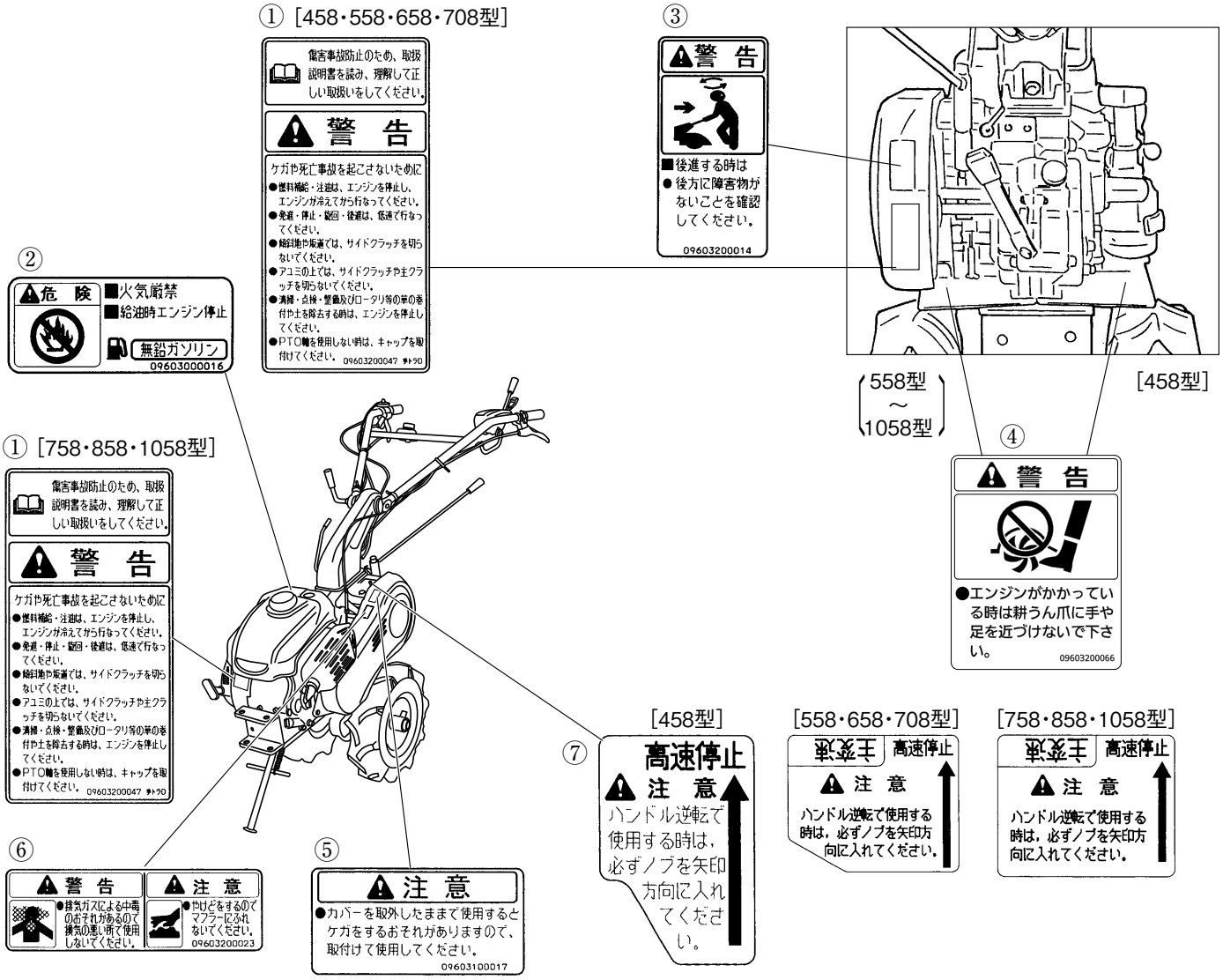
◆燃料を抜取ってください。

- ●燃料腐食で気化器内部を腐食させるので燃料コックレバーを《止》にし、気化器下側のプルドレンから気化器内の燃料を抜取ってください。その際、燃料は適切な容器で受けてください。

2. 表示ラベルについて

本機には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また、本機に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」**に注文して購入し貼り替えてください。



No.	部 品 名 称	部 品 番 号	備 考
①	ケイコクラベル　ホトラD	0960 3200 047	
②	キケンラベル　ガソリン	0960 3000 016	
③	ケイコクラベル　コウホウ	0960 3200 014	
④	ケイコクラベル　タイン	0960 3200 066	
⑤	チュウイラベル　カバー	0960 3100 017	
⑥	ケイコクラベル　ハイガス	0960 3200 023	
⑦	トリアツカイマーク	1400 2816 000	458型
		1400 2826 001	558・658・708型
		1401 2821 001	758・858・1058型

地球環境を守るために

この製品は（社）日本陸用内燃機関協会（陸内協）が環境保全のために定めた排出ガス自主規制に適合しているエンジンを搭載しています。



この自主規制は小型汎用火花点火エンジンの排出ガス中の炭化水素（HC)、窒素酸化物（NOx)、および一酸化炭素（CO）を低減するためのもので、識別のため陸内協で決定した右図の適合ラベルをエンジンファンカバーなどに貼付けています。

使用期間中は、次の事項を守ってください

１．自主規制適合ラベルは剥がさないでください。

２．エンジンの点検整備は、取扱説明書にしたがって実施してください。
気化器の調整、部品交換が必要な場合には、「お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所」にご相談ください。

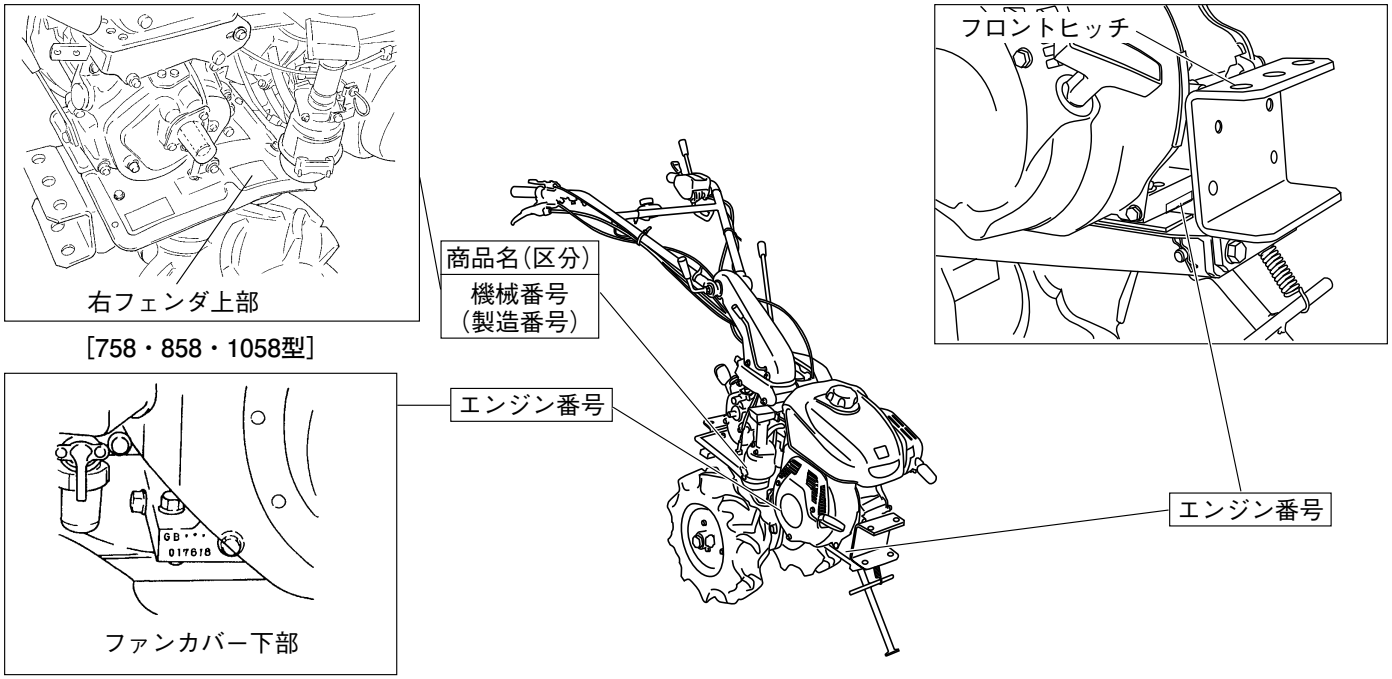
本エンジンは排出ガスの量が規定値内になるように管理出荷していますが、運転中の吸入空気と燃料の混合比に影響する気化器の調整、整備不良、不適切な部品交換がされた場合、排出ガス量は規定値を外れることがありますので注意願います。

ご使用前に

1．保証とサービスについて

・本機には保証書が添付されていますので、ご使用前によくお読みください。

・本機のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所**」にご相談ください。その際「**商品名（区分）**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

本機の使用目的について

・本機は**ほ場でのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください**。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。

・本機を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。

⚠警告

◆本機を使用目的以外の作業に使用しないでください。

◆本機を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか、人身事故の原因になることがあります。

◆トレーラー作業には使用しないでください。

2. 仕様（装備）について

お買いあげの本機の商品名をお確かめのうえ、お間違えのないようにお読みください。

・お買いあげの本機の商品名と主な仕様の違いを次の表でお確かめください。

商品名（区分）	仕様	エンジン最大出力 kW {PS}	タイヤサイズ	ホイルチューブ六角軸対辺	変速段数 前進	変速段数 後進	サイドクラッチ	駐車ブレーキ	ハンドルワンタッチ上下レバー
MM458A	S	3.0 {4.2}	100／85D6	32㎜	6（ベルト掛替）	2（ベルト掛替）	有	無	無
	SGJ		タイヤ無	35.3㎜					
MM558A	S	4.2 {5.7}	100／85D6	32㎜	6	2			有
	SL		4.00－7						
	SG		100／85D6	35.3㎜					
	SGJ		タイヤ無						
MM658A	S	4.6 {6.3}	4.00－7	32㎜					
MM708A	S	5.1 {7.0}		35.3㎜	4	2		有	
MM758A	S	5.5 {7.5}			6	2			
	SL		4.00－8						
MM858A	S	6.3 {8.5}							
	SP		17×8.00－8						
MM1058A	S	7.7 {10.5}	4.00－9						
	SP		17×8.00－8						

・区分記号の説明

S＝サイドクラッチ有　　G＝ホイルチューブ対辺　35.3㎜　　J＝タイヤ無　　L＝大径タイヤ

3. 用語について

❶ マークの説明

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

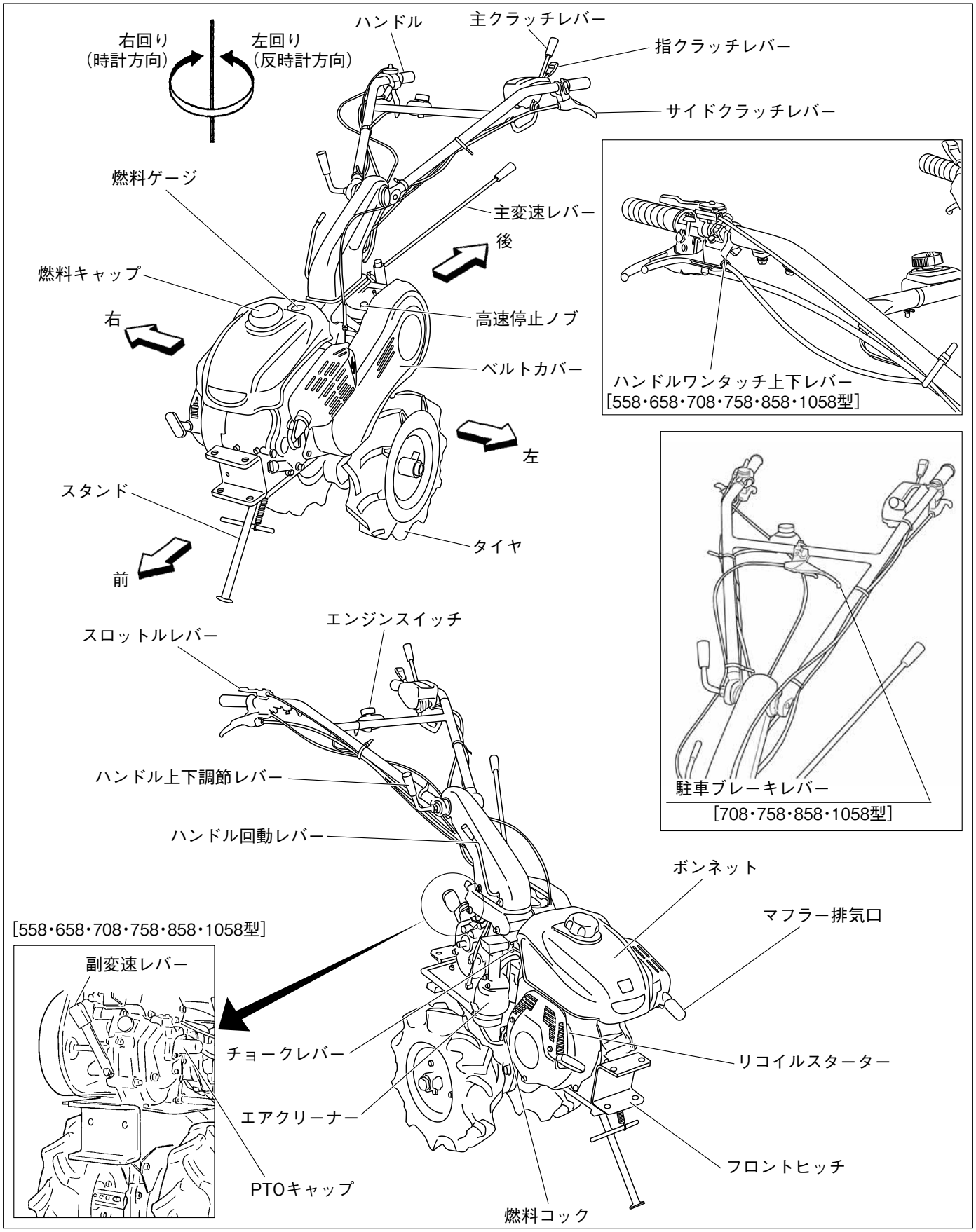
❷ 型式別表示

この取扱説明書はMM658Aを基本に説明してあります。MM658Aと取扱いかたが異なる場合は、そのつど［458型］…［1058型］などで記載して追加説明しています。

名称	本文表示	名称	本文表示
MM458A	［458型］	MM758A	［758型］
MM558A	［558型］	MM858A	［858型］
MM658A	［658型］	MM1058A	［1058型］
MM708A	［708型］		

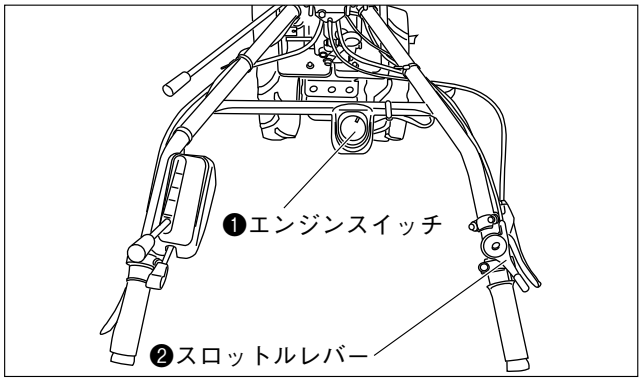
各部のはたらき

1．本機方向説明と各部の名称



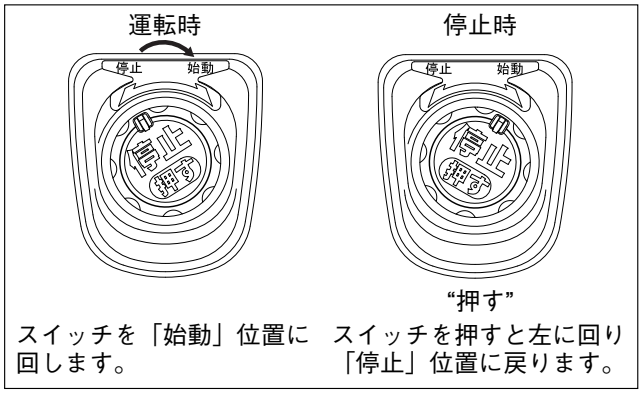
2. 運転装置の取扱い

1. エンジンコントロール関係



❶ エンジンスイッチ

エンジンを始動するときは右に回し、停止するときはスイッチを押します。

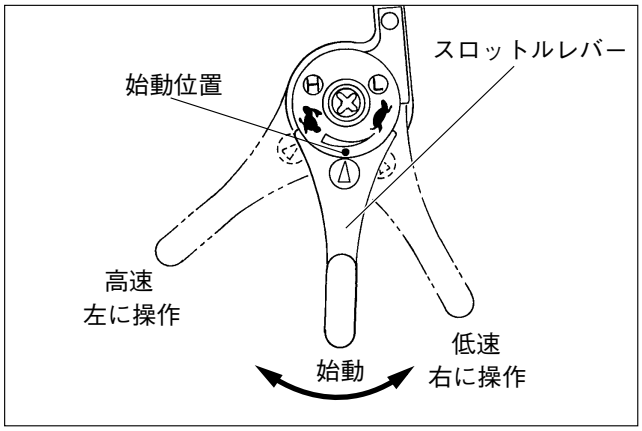


取扱いのポイント

●緊急時にエンジンを停止させたい場合はエンジンスイッチを押してください。

❷ スロットルレバー

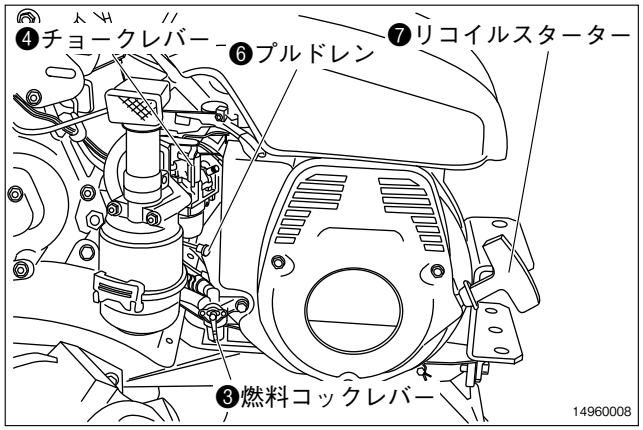
・《🐢》……右に操作すると「**低速**」になります。
・《🐇》……左に操作すると「**高速**」になります。
・《●》……エンジン始動時は「**中間**」にします。



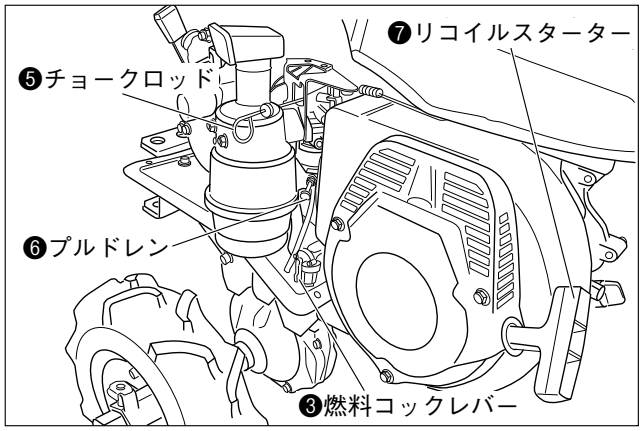
❸ 燃料コックレバー

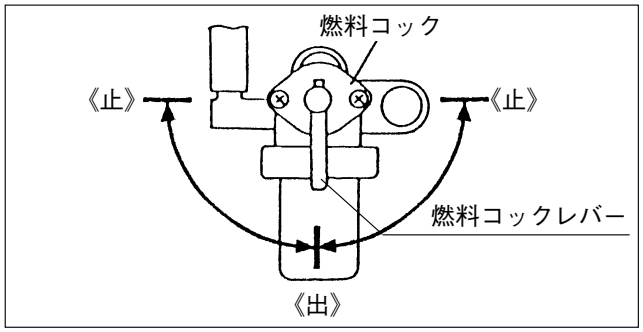
タンク内の燃料を出したり、止めたりするときに操作します。

[458・558・658・708型]



[758・858・1058型]





❹ チョークレバー [458・558・658・708型]

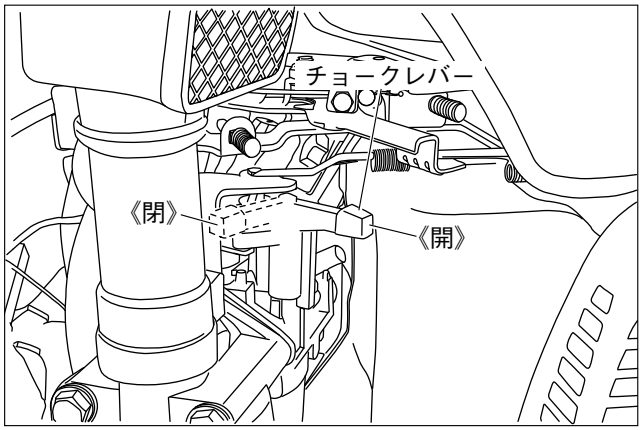
エンジンを始動するときに使用します。

レバーを《**閉**》の位置にすると燃料の混合気が濃くなり、エンジンの始動を容易にします。

外気温度が低いときはチョークレバーを《**閉**》位置で始動します。

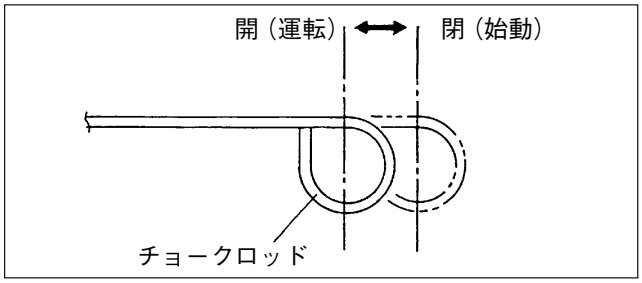
エンジンが暖まっているときまたは、外気温度が高いときはチョークレバーを《**開**》位置で始動します。

エンジンが始動したらエンジンの調子をみながらレバーを《**開**》の位置に戻します。(外気温度が高いときでもエンジンが始動しない場合は、チョークレバーを《**閉**》の位置にしてください。)



❺ チョークロッド［758・858・1058型］

エンジンを始動するときに引きます。



❻ プルドレン

気化器内の燃料を排出するときに使用します。燃料コックレバーを《**止**》位置にしてから引きます。

・流れ出る燃料は適切な容器に受けてください。

❼ リコイルスターター

エンジンを始動するときに使用します。

リコイルスターターの握りを引いてエンジンを始動します。

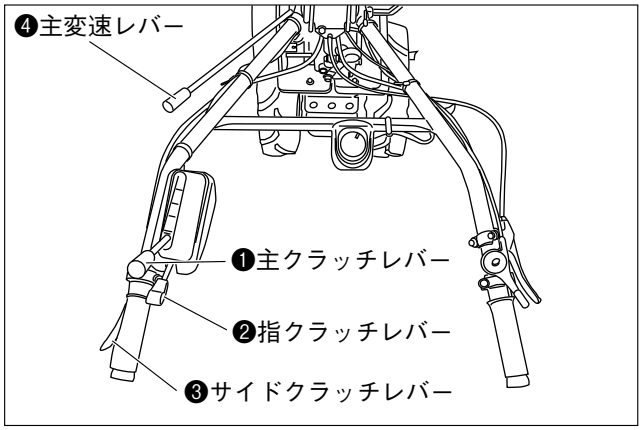
取扱いのポイント

ミラクルスタート［458・558・658・708型］

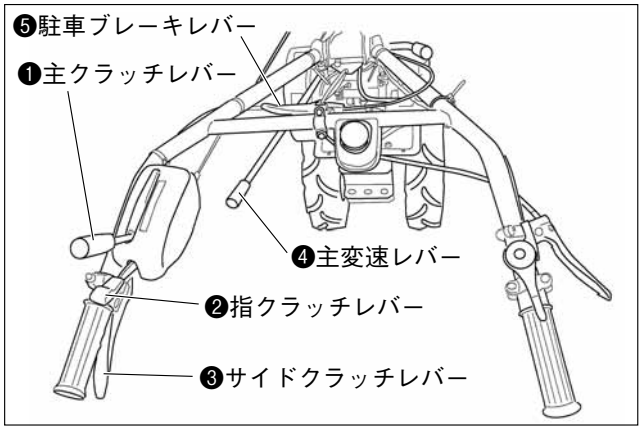
- **通常のリコイルスターターよりゆっくり引いても始動できます。**
- **ロープをいっぱいまで引ききると故障の原因となることがあります。**
- **リコイルスターター内部を分解しないでください。内部のスプリングが飛び出す恐れがあり危険です。**
- **リコイルスターターを引くときは主クラッチレバーを《切》にしてください。**
- **運転中はリコイルスターターを引かないでください。**
- **周囲に人がいないことを確認してから始動してください。**

2. 運転装置関係

[458・558・658型]



[708・758・858・1058型]

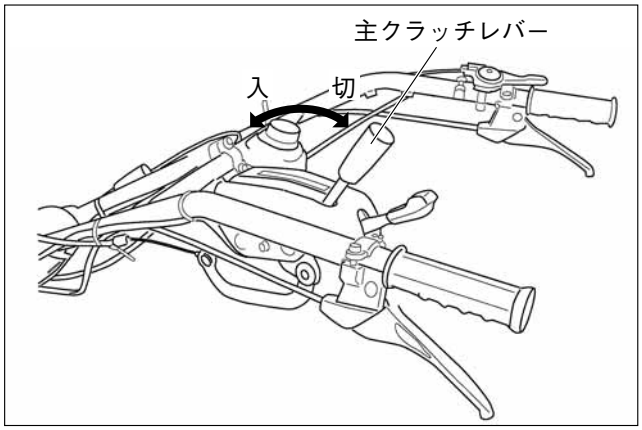


❶ 主クラッチレバー

車軸（タイヤ）およびPTO軸（動力取出し軸）の動力を《**入**》《**切**》するときに操作します。

クラッチ《**入**》操作は主クラッチレバーを前方に倒します。

クラッチ《**切**》操作は主クラッチレバーを手前に引きます。



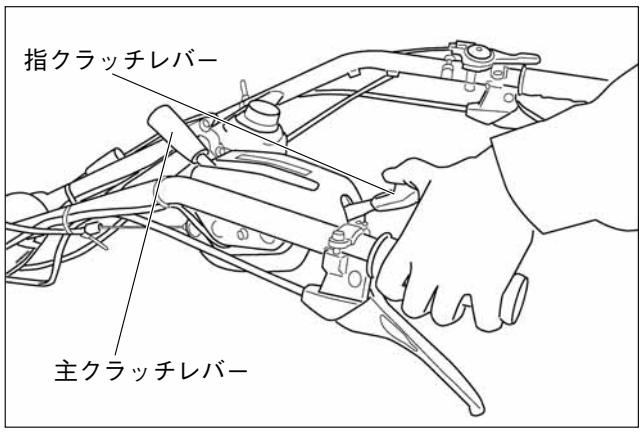
取扱いのポイント

- **主変速レバーを操作するときは主クラッチレバーを《切》にしてください。**
- **エンジンを始動するときは主クラッチレバーを《切》にしてください。**

❷ 指クラッチレバー

ハンドルを握ったままワンタッチで主クラッチを操作できます。レバーを押すと主クラッチは《**入**》となりエンジンの動力をミッションに伝えます。もう一度押すと《**切**》となります。

※主クラッチレバーでもクラッチ《**入**》《**切**》が行えます。



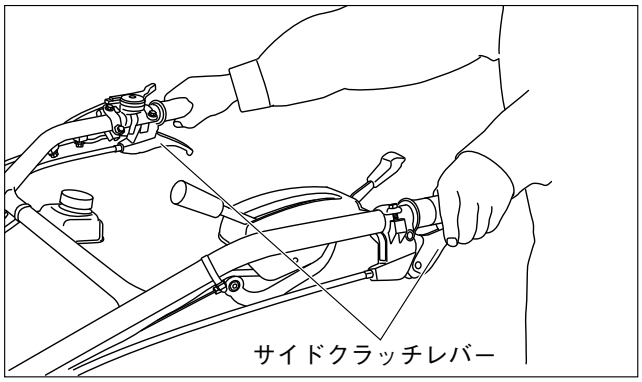
❸ サイドクラッチレバー（右）、（左）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆移動、アユミ使用時、傾斜地ではサイドクラッチ操作をしないでください。サイドクラッチを操作すると反対方向に旋回することがありますのでハンドル操作のみで旋回してください。

◆低速作業以外ではサイドクラッチ操作をしないでください。

進行方向を変えるときに使うレバーです。進みたい方向のレバーを握り方向を変えます。



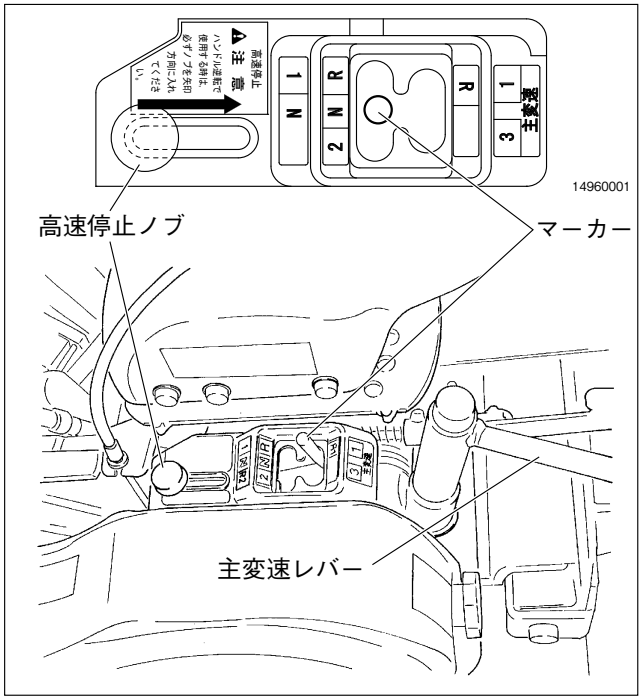
取扱いのポイント

- **サイドクラッチを操作するときはエンジン回転を低速にしてください。**
- **深耕用ローターでの耕うん中はサイドクラッチ操作はしないでください。ローターが土から出てから操作してください。**

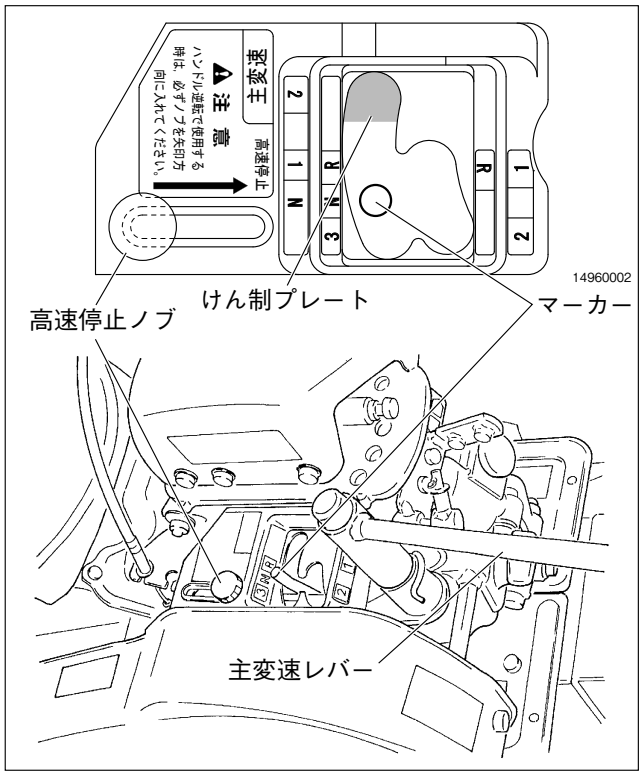
❹ 主変速レバー

・前進方向３段（[708型] は２段)、後進方向１段の変速ができます。
・マーカーの位置が変速位置です。
・ハンドルを逆位置にしたときは、高速停止ノブを高速停止位置にします。けん制プレートが解除され前進方向２段（[458型] は１段）後進方向１段の変速ができます。

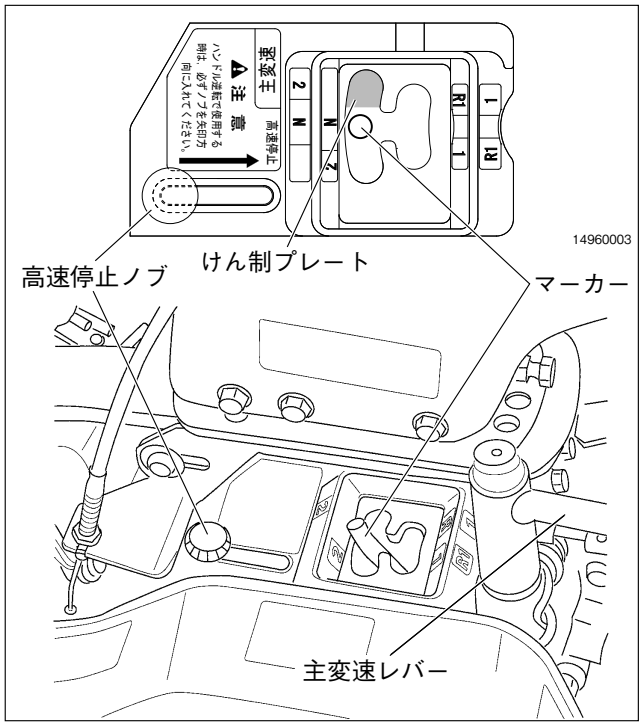
[458型]（前進３段、後進１段）



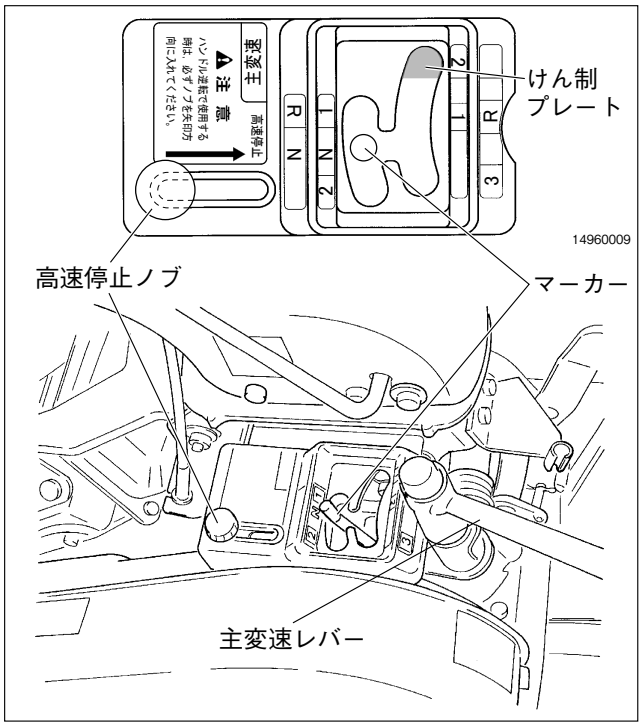
[558・658型]（前進３段、後進１段）



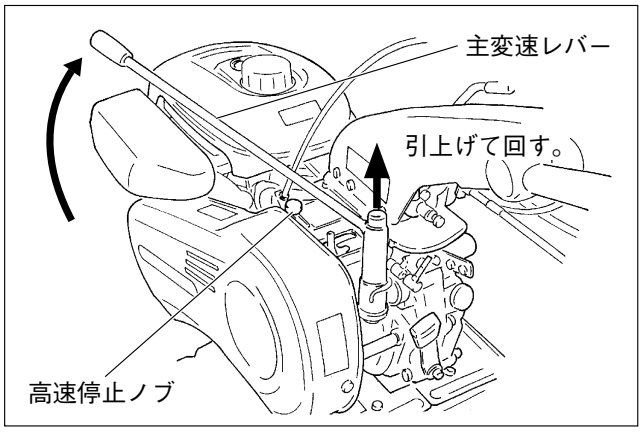
[708型]（前進２段、後進１段）



［758・858・1058型］(前進３段、後進１段)



・ハンドルを回して逆向きで作業を行うときは、主変速レバーも逆向きにします。主変速レバーの根元を持ち、引上げてから回します。

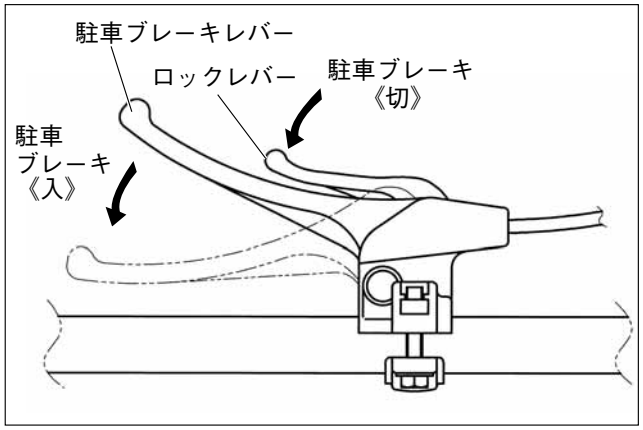


❺ 駐車ブレーキレバー［708･758･858･1058型］

駐車ブレーキを《入》･《切》するときに操作します。

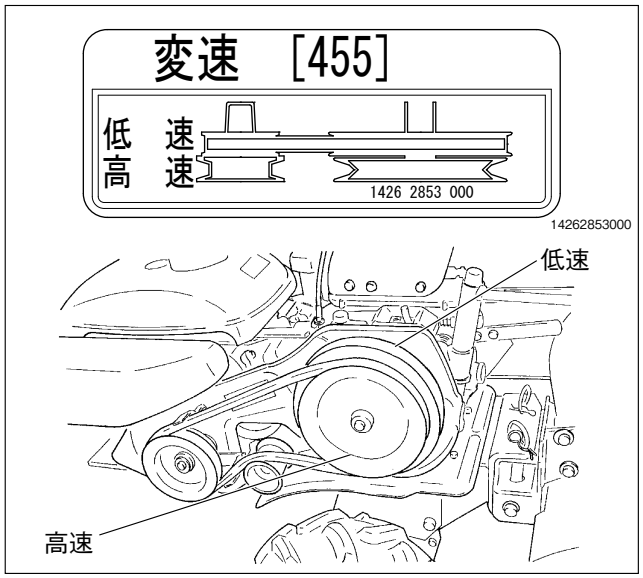
駐車ブレーキ《入》操作は駐車ブレーキレバーをロックレバーが作用するまで握ります。

駐車ブレーキ《切》操作はロックレバーを手前に引きます。

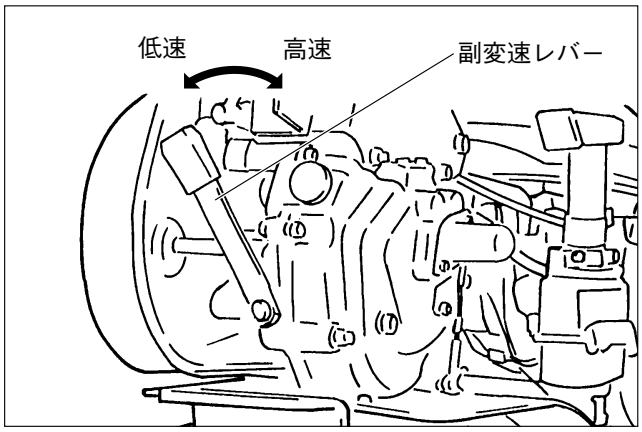


❻ 副変速

・［458型］はベルトの掛替で《低速》《高速》２段の切替ができます。



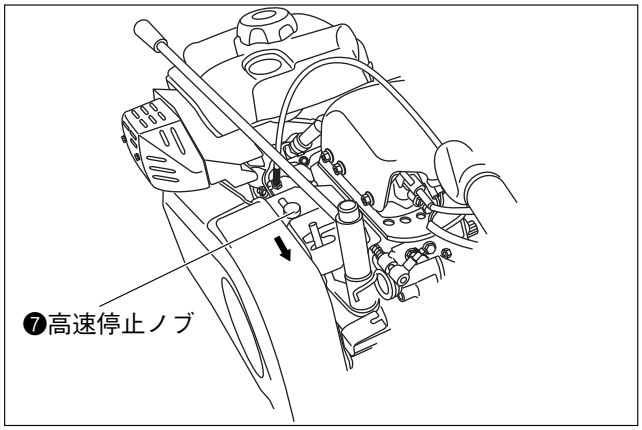
・[558・658・708・758・858・1058型] は副変速レバーで《**低速**》《**高速**》２段の切替ができます。

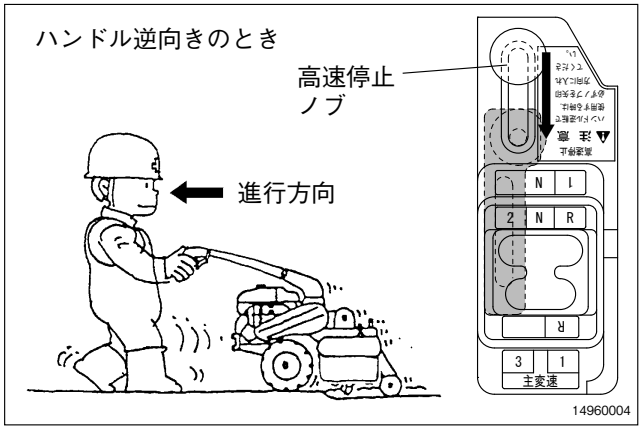


❼ 高速停止ノブ

主変速レバーの操作を一部規制するノブです。

・ハンドルを回して逆向きで作業を行なうときは、高速停止ノブをゆるめ《**高速停止**》位置で固定します。



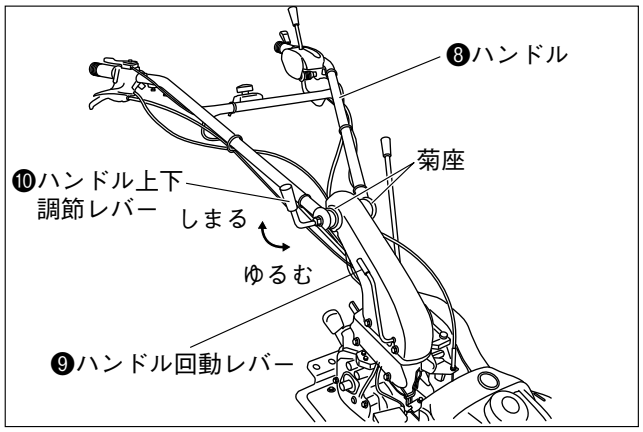


❽ ハンドル

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドルを逆向きにするときは高速停止ノブをゆるめ《高速停止》の位置で固定してください。
《高速停止》の位置にしておかないと本機が作業者に向って高速で発進し、思わぬ事故になることがあります。

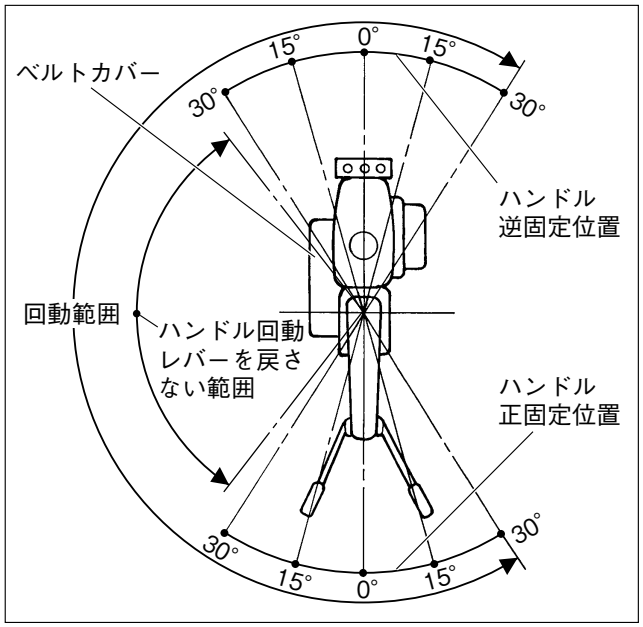
ハンドルは作業の種類､作業者に合わせて左右･逆向き・上下に調節できます。



❾ ハンドル回動レバー

・ハンドル正位置、逆向き共左右にそれぞれ２段の調節ができます｡(固定位置は図の10箇所です)

・ハンドル回動レバーを押し下げてハンドルを使いやすい位置まで回動します。ハンドル回動レバーから手を離しハンドルをさらに回すとレバーが戻りハンドルが固定されます。



取扱いのポイント

- **サイドクラッチを握ったままでハンドル回動レバーは押せません。**
- **ハンドルを回動するときはベルトカバー側に回動してください。反対側には回動しないでください。無理に回動しようとすると回動規制ストッパーが破損することがあります。**
- **ハンドル回動途中のハンドル回動レバーを戻さない範囲ではレバーから手を離さず押し続けてください。**

⑩ ハンドル上下調節レバー

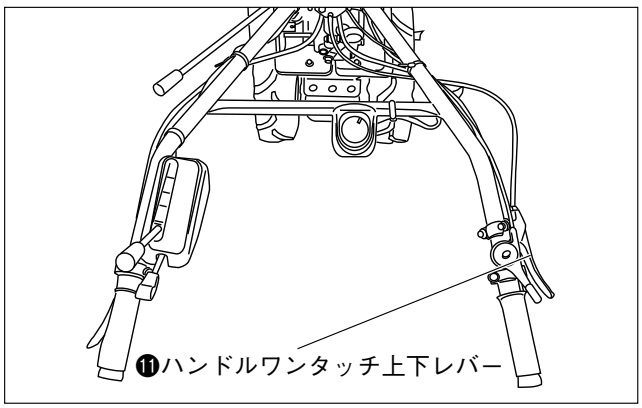
> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆ハンドルの高さ調節時はスタンドを立てるなどしてハンドルから手を離しても本機が安定している状態にしてください。

・調節は、ハンドル上下調節レバーをゆるめて菊座をずらすことで行います。作業しやすい高さは、ハンドルグリップを腰の高さに合わせるのが目安です。
・設定後レバーをしめてハンドルを固定します。

⑪ ハンドルワンタッチ上下レバー

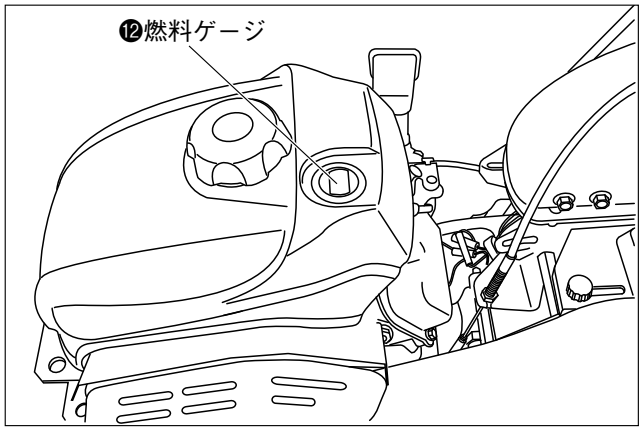
[558・658・708・758・858・1058型]

・ハンドルの高さを大きく動かすときに使用します。上段、中段、下段の３段の調節ができます。
・ハンドルワンタッチ上下レバーを握りハンドルを動かします。レバーを離してさらに動かすと固定位置で固定されます。



⑫ 燃料ゲージ

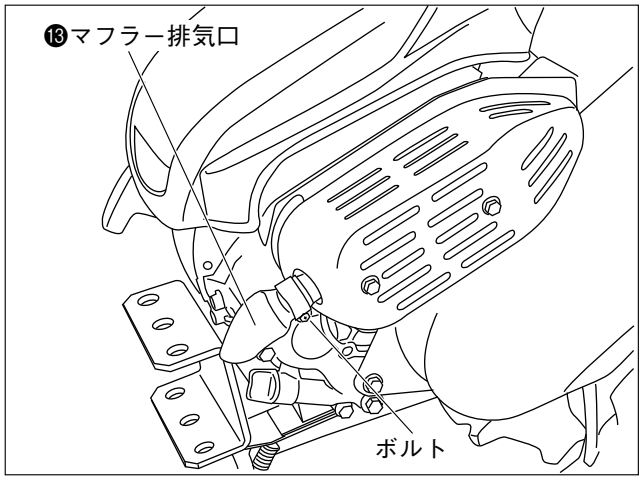
燃料の残量をボンネット上面の燃料ゲージで確認します。E位置になったら燃料（無鉛ガソリン）を補給します。



⑬ マフラー排気口

> ⚠警告 ヤケドや傷害事故防止のために
>
> ◆エンジンまわりの調整はエンジンが冷えてから行なってください。

マフラーの排気方向を変えることができます。作業に合わせてマフラー排気口のボルトをゆるめて方向を変えます。



運転のしかた

1．運転前の点検

安全作業のために毎日の運転前に「**運転前の点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときには本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止してから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気に近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの劣化や、傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し、傷や漏れがあれば交換してください。

「**運転前の点検表**」

点検箇所			処置
運転前に	エンジンオイルの量	・給油栓にあるレベルゲージの上下線の間に油面があるか。	・油面が給油栓レベルゲージの上限になるまで補給する。（28ページ参照）
	燃料ストレーナー	・水やゴミがたまってないか。 ・ネットの目詰まりはないか。	・掃除する。（30ページ参照）
	燃料タンク	・作業に必要な燃料があるか。	・無鉛ガソリンを補給する。（28ページ参照）
	エアクリーナー	・エレメントは汚れてないか。 ・オイルは汚れてないか。 ・オイルはレベルラインまであるか。	・掃除する。 ・オイルをレベルラインまで交換または補給する。（30ページ参照）
	リコイルスターターの吸気口	・吸気口の目詰まりはないか。	・掃除する。（31ページ参照）
	燃料ホース	・燃料漏れはないか。 ・劣化していないか、また傷はないか。 ・継手部のクランプはゆるんでないか。	・ホースを交換する。（31ページ参照） ・クランプを交換してしっかりと固定する。
	エンジン、マフラー、燃料タンク周囲	・ワラクズなどのゴミがたまってないか。	・掃除する。
	ハンドル上下調節レバー	・レバーはゆるんでないか。 ・菊座は合っているか。	・菊座に合わせレバーを締付ける。（10、21ページ参照）
	ハンドル逆向き使用時	・高速停止ノブが《**高速停止**》位置に固定してあるか。	・《**高速停止**》位置に確実に固定する。（9、23、24ページ参照）
	作業機	・作業機が確実に固定されているか。 ・作業部が摩耗してないか。	・作業機の取扱説明書を参照する。
	各部の注油	・油切れはないか。	・適量の注油をする。（27、29ページ参照）
エンジンを始動して	主クラッチレバー 指クラッチレバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常箇所を調べ処置する。（6、15、32ページ参照）
	サイドクラッチレバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常箇所を調べ処置する。（6、16、33ページ参照）
	スロットルレバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常箇所を調べ処置する。（4、16、34ページ参照）
	エンジンスイッチ	・エンジンスイッチを押したときエンジンが停止するか。	・異常箇所を調べ処置する。（4、16ページ参照）

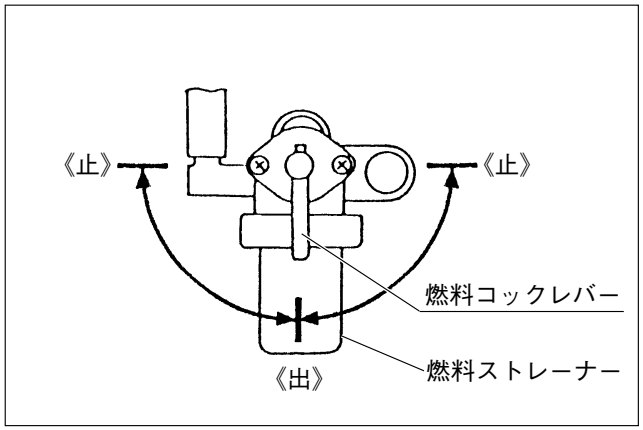
2. エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

◆本機を平坦な広い場所に置き、マフラー、マフラー排気口付近の燃えやすいものは取除いてください。
◆ハンドルを離しても本機が動かないようにスタンドまたは作業機で安定させてください。
◆点検などで取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆エンジンを始動するときは主変速レバーを「中立」にし主クラッチレバーを《切》にしてください。主クラッチレバーを《切》にしないとエンジンは始動しません。
◆マフラー排気口付近に燃えやすいものを置かないでください。
◆屋内やハウスでの始動は窓や戸を開けて換気を行い、排気ガス中毒にならないようにしてください。
◆マフラーやエンジンには冷えるまで触れないでください。熱いときに触れると「やけど」をします。
◆リコイルスターターの握りを引くときにプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

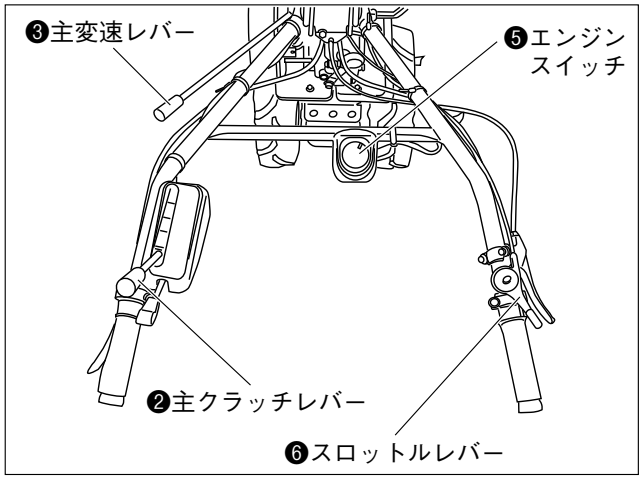
1. エンジン始動のしかた

❶ 燃料ストレーナーの燃料コックレバーを《**出**》位置にします。



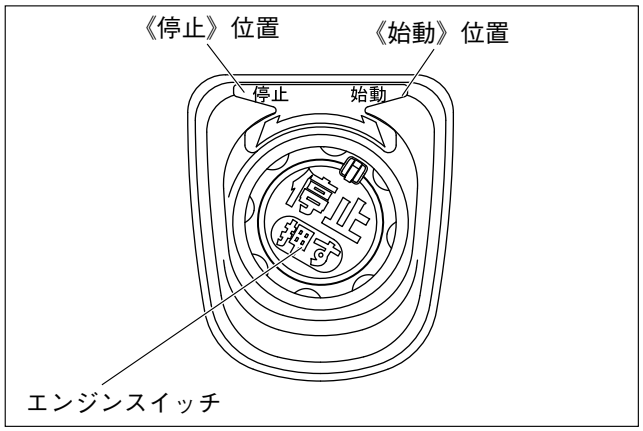
❷ 主クラッチレバーを《**切**》にします。

❸ 主変速レバーを「**中立**」にします。

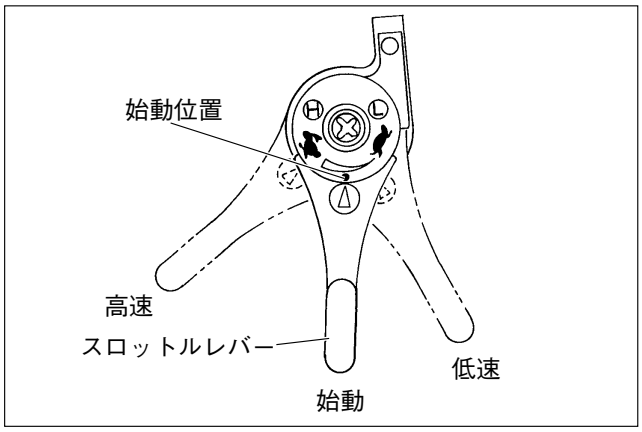


❹ ロータリー装着型式では、ロータリークラッチを《**切**》にします。

❺ エンジンスイッチを《**始動**》位置にします。

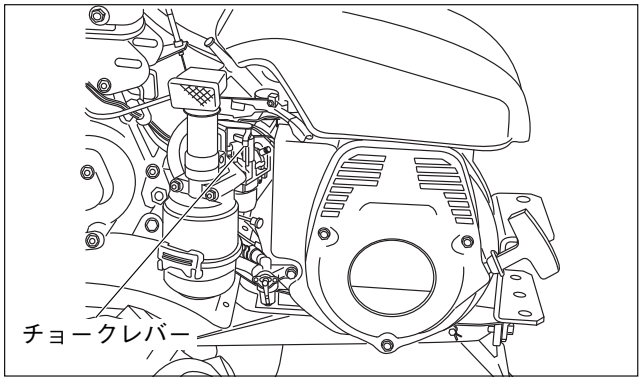


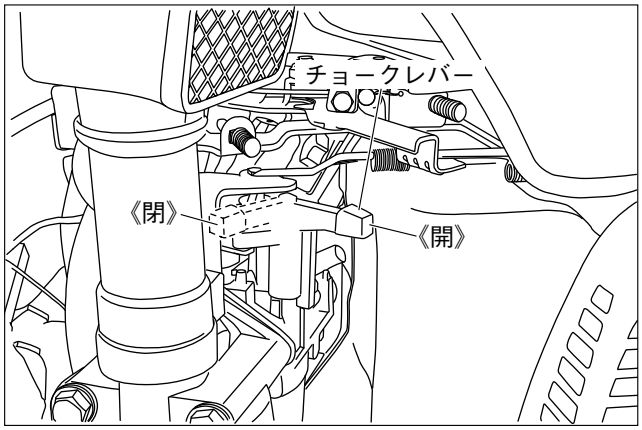
❻ スロットルレバーを「**始動**」位置《●》印部にします。



❼ 外気温度が低いときは、チョークを《**閉**》にします。

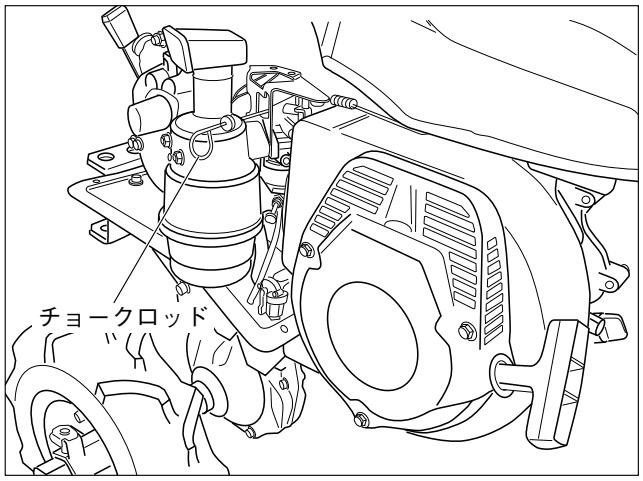
[458・558・658・708型]





エンジンが暖まっているとき、または外気温度が高いときは、チョークレバーを《**開**》にします。(外気温度が高いときでもエンジンが始動しない場合はチョークレバーを《**閉**》の位置にしてください。)

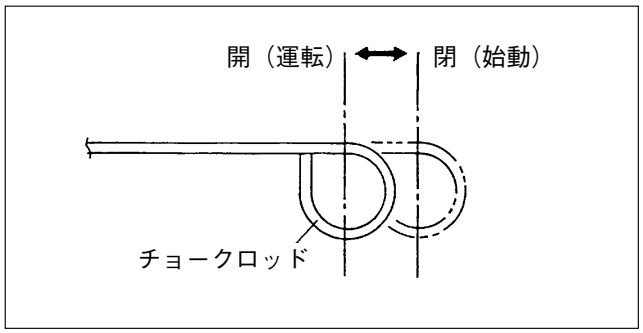
[758・858・1058型]



チョークロッドをいっぱい引きます。(**閉**)

・夏期またはエンジンが暖まっているときは、チョークロッドを押込んだ状態にします。(**開**)

・チョークロッドを引き１回で始動しないときは、チョークロッドを押込み、リコイルスターターの握りを２～３回ゆっくり引きます。



❽　リコイルスターター握りを引きます。
　エンジンが始動したら調子をみながらチョークを徐々に《**開**》に戻します。
・チョークレバーを《**閉**》にセットして２～３回で始動しないときは、燃料を吸込みすぎてさらに始動困難となるので、チョークを《**開**》にしてリコイルスターターを２～３回ゆっくりと引きます。

取扱いのポイント

- **プラグキャップを外したままでリコイルスターターの握りを引かないでください。**
- **エンジン始動後はスロットルレバーを《低速》と《高速》の中間にし、約５分間暖機運転を行ってから作業してください。**
- **リコイルスターターを引くときは主クラッチレバーを《入》にしないでください。**
- **チョークを《半閉》で使用し続けると故障の原因になります。**

2．エンジン停止のしかた

❶　主クラッチレバーを《**切**》にします。
❷　スロットルレバーを《**低速**》にします。
❸　主変速レバーを《**中立**》にします。
❹　エンジンスイッチを押してエンジンを停止します。
❺　燃料ストレーナーの燃料コックレバーを《**止**》の位置にします。(燃料コックレバーを横に向けます。)

3．発進・旋回・停車のしかた

1．発進のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

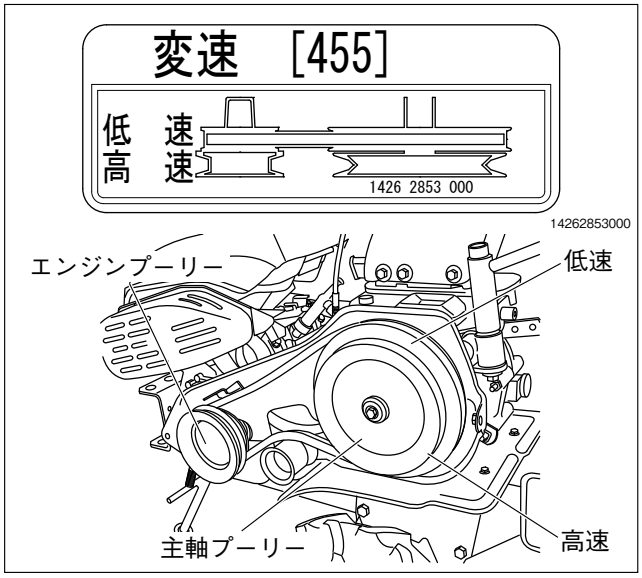
◆ベルトの掛替え、交換をするときはエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。[458型]
◆ハンドルを逆向きにしたときは高速停止ノブをゆるめ《高速停止》の位置に固定してください。《高速停止》の位置に固定しておかないと本機が作業者に向かって高速で発進し、思わぬ事故になることがあります。
◆車軸作業速度以上（24、25ページ参照）で走行するときはスロットルレバーを《低速》にしてください。車速が速くて思わぬ事故をおこすことがあります。
◆主クラッチレバーはゆっくり入れてください。急激に入れると急発進して思わぬ事故になることがあります。
◆移動走行するときは輪距を広げてください。狭いと本機の安定が悪く転倒することがあります。
◆本機は小型特殊車両ではありません。トレーラーでの路上走行はできません。

❶　スタンドをたたみます。
❷　駐車ブレーキを《**切**》にします。
❸　主クラッチレバーを《**切**》にします。
❹　副変速を作業に応じた変速位置にします。(23～24ページ参照)
⑴　［**458型**］はベルト掛替えにより《**低速**》《**高速**》２段の切替えができます。掛替えは次のように行います。
・エンジンを停止し、主クラッチレバーを《**切**》にします。
・ベルトカバーを外します。
・変速しようとするプーリにベルトを掛替えます。

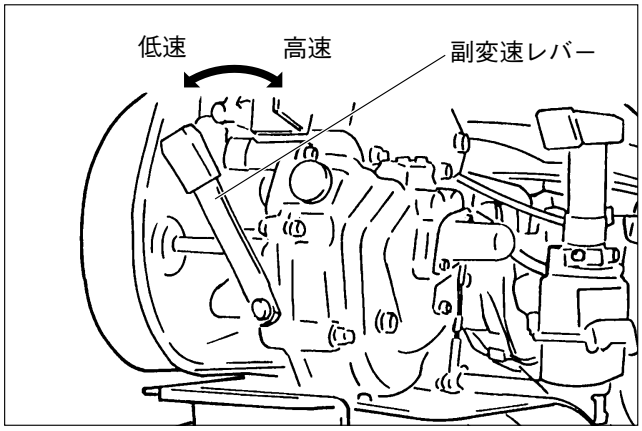
「**奥側が低速**」、「**手前側が高速**」の変速プーリーです。

《**低速**》から《**高速**》への掛替えは主軸プーリー側より掛替えます。

《**高速**》から《**低速**》への掛替えはエンジンプーリー側より掛替えます。

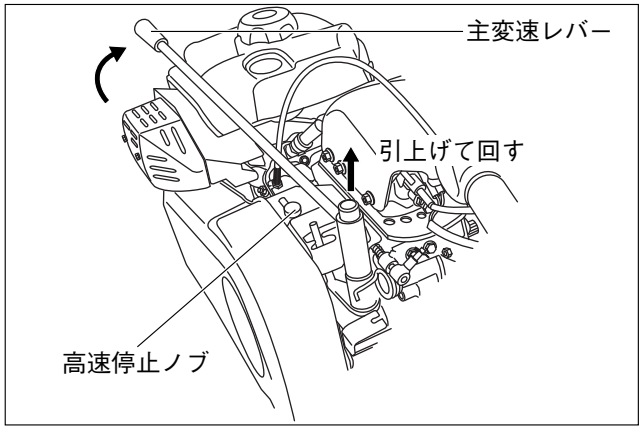


⑵ [**558・658・708・758・858・1058型**] は副変速レバーで《**低速**》《**高速**》2段の切替えができます。

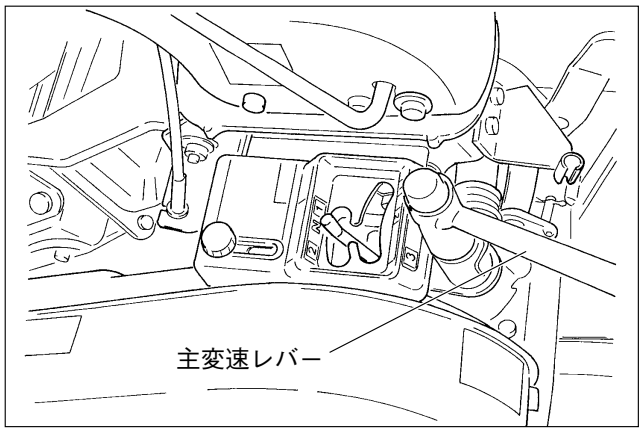


❺ ハンドルを逆向きにしたときは、主変速レバーを《**中立**》にし、高速停止ノブを《**高速停止**》の位置に固定します。

・主変速レバーもハンドルの回動位置に合わせて操作しやすい位置にします。主変速レバーの根元部を持ち、引き上げて回します。

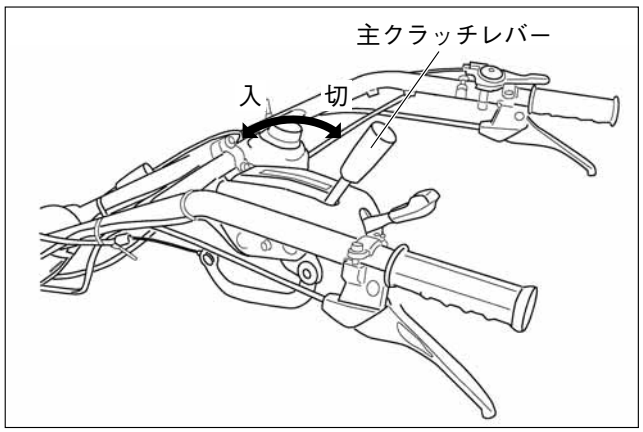


❻ 主変速レバーを作業に応じた変速位置に入れます。(23～24ページ参照)

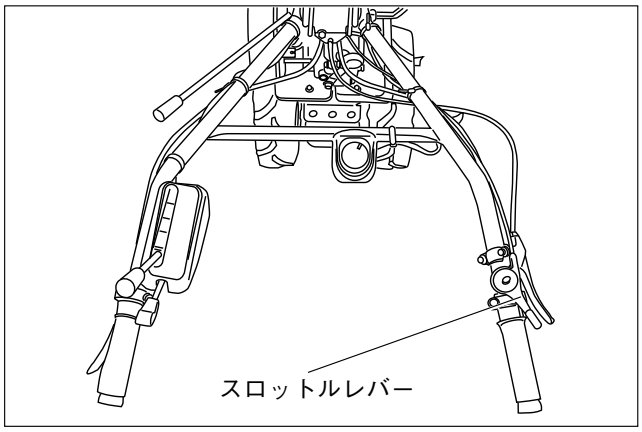


❼ 主クラッチレバーを《**入**》にすると発進します。

主クラッチレバーをゆっくり入れます。



❽　スロットルレバーを操作し、エンジン回転を上げます。



取扱いのポイント

- **主変速レバー、副変速レバーは主クラッチレバーを《切》にして操作してください。**
- **主変速レバー、副変速レバーが入り難い場合は無理な操作をせず主クラッチを入れもう一度切ってから変速してください。**
- **ベルトの掛替えは《低速》から《高速》、《高速》から《低速》ともにベルトガイドを調整する必要はありません。ベルトの掛替えを行なったときは主クラッチレバー《切》でベルトが停止することを確認してください。**

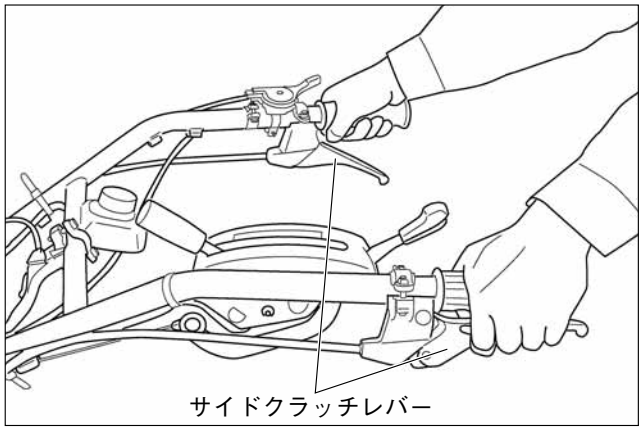
2. 旋回のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆傾斜地ではサイドクラッチ操作をしないでください。サイドクラッチを操作すると反対方向に旋回することがありますのでハンドル操作のみで旋回してください。
◆低速作業以外ではサイドクラッチ操作をしないでください。急旋回して思わぬ事故をおこすことがあります。

❶　エンジン回転を低速にし、旋回しようとする側のサイドクラッチレバーを握ります。

　ハンドルを逆向きにしたときも旋回しようとする側のサイドクラッチレバーを握ります。

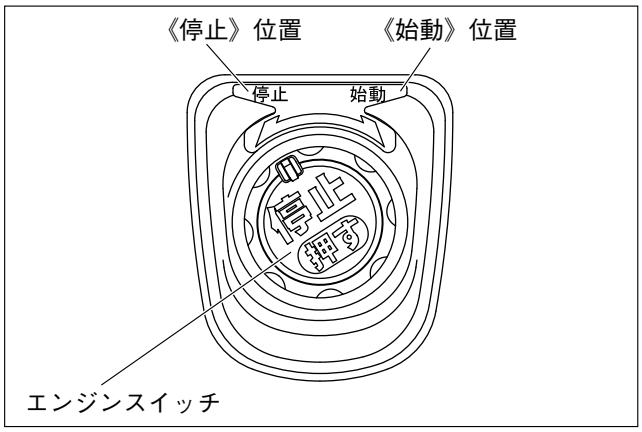


3. 停車のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆本機を止めるときは平坦な場所を選んでください。
◆燃えやすいものの近くには停車しないでください。
◆エンジンが熱いときはカバーをかけないでください。「火災」の原因になります。

❶ 主クラッチレバーを《**切**》にします。
❷ スロットルレバーを《**低速**》にします。
❸ 主変速レバーを《**中立**》にします。
❹ エンジンスイッチを押してエンジンを停止します。
❺ 燃料ストレーナーの燃料コックレバーを《**止**》にします。
❻ 長時間使用しないとき（１ヶ月以上）はプルドレンを引き気化器内の燃料を抜きます。その際、燃料は適切な容器で受けてください。



取扱いのポイント

- **エンジンを停止するときは２～３分間低回転で運転してから停止してください。**
- **本機（エンジン）が傾斜した状態でエンジンを停止したときは燃料コックレバーを《止》の位置にしてください。燃料がオーバーフローし、エンジンが始動困難になることがあります。**
- **エンジンを停止したあと長期間使用しないときは、リコイルスターターを引き、そのまま重くなった位置（圧縮位置）にしてください。**
- **長時間使用しないときは燃料コックレバーを《止》にしてからプルドレンを引き気化器内の燃料を抜いてください。その際、燃料は適切な容器で受けてください。**

4. 自動車への積み降ろし

・まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び、運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守って、慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆アユミ板が傾いたりしない平坦な場所を選んでください。
◆自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を「後進」(MT車)、「P」(AT車）に入れタイヤに輪止めをしてください。
◆アユミ板は本機の質量に耐える強度、幅(車輪が外れない幅)、長さ(荷台高さの４倍以上)のある、すべり止め、フック付き、耕うん爪が引掛からないものを使用してください。
◆アユミ板は隙間のないものを使用してください。
◆アユミ板のフックは段差のないように、またずれないように荷台に確実にかけてください。
◆積込みは前進、積降ろしは後進で主変速は《１》速、副変速は《低速》で行なってください。
◆アタッチメント（作業機）は取外して積み降ろしを行ってください。
◆自動車で本機を輸送中は急発進・急停止をやめ、カーブでは減速してください。本機の落下などの事故を起こすことがあります。
◆積み降ろしは補助者立会い誘導のもとに行なってください。また本機の周囲に人を近づけないでください。
◆積み降ろし中はアユミの上で主クラッチレバー、サイドクラッチレバーの操作はしないでください。急に方向転換したりして転落する恐れがあります。

1．自動車・アユミ板について

❶　本機質量の積載を満たす自動車で荷台からはみ出さない車を使用します。

❷　自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を「後進」(MT車)、「P」(AT車）に入れタイヤに輪止めをします。

❸　アユミ板は本機の質量に耐える強度、幅（車輪が外れない幅)、長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き、フック付きのものを使用します。

❹　アユミ板は本機の車輪幅に合わせて自動車の荷台と平行に段差のないようにかけ、横ずれしたり、はずれたりしないか確認します。

アユミ板の基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	30㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が200kg以上の質量に耐えるもの
隙間が無くすべらない処理がしてあるもの	

2．本機の取扱い

❶　エンジン回転を低速にします。

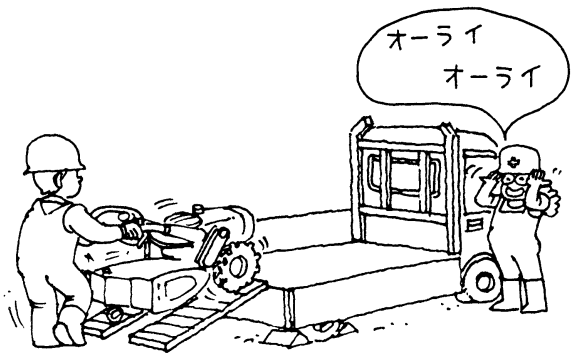
❷　スタンドをたたみます。

❸　積込みは前進で行い、主変速レバーは前進の《**1**》速、副変速は《**低速**》にします。

❹　降ろすときは後進で行い、主変速レバーは後進の《**1**》速、副変速は《**低速**》にします。

❺　積込み後はエンジンを停止し、車輪に輪止めをして主変速レバーを《**1**》速、主クラッチレバーを《**入**》にしておきます。

❻　本機はフロントヒッチを自動車の荷台の床に付けてロープで固定します。作業機が付いている場合は本機を安定させた状態でロープで固定します。



作業のしかた

1．作業前の準備

1．輪距の調節

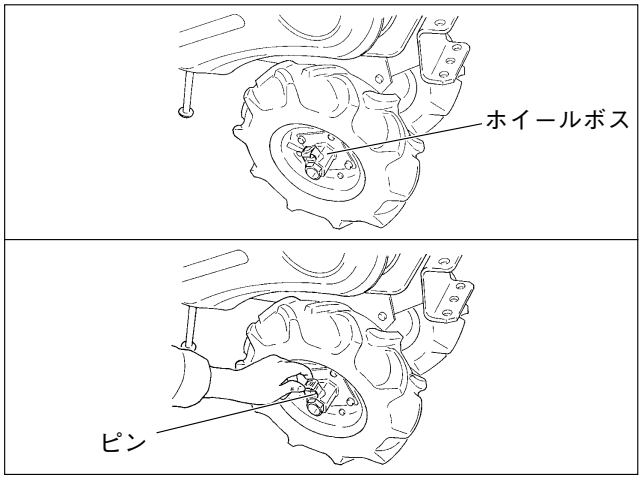
⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上移動のときは、できるだけタイヤのセット幅を拡げて本機を安定させてください。幅が狭いと転倒の恐れがあります。

◆輪距調節後はピンが確実にホイールチューブピン穴に入っていることを確認してください。入っていないと車輪がはずれて思わぬ事故を引起こすことがあります。

輪距の調節はホイールボスのスプリング付のピンを引抜き､90°回転させて車輪を作業に合った位置にスライドします｡再びピンを90°回転させて固定します。

車軸へ直接カルチ車輪などを付ければ狭いあぜ間作業ができます。

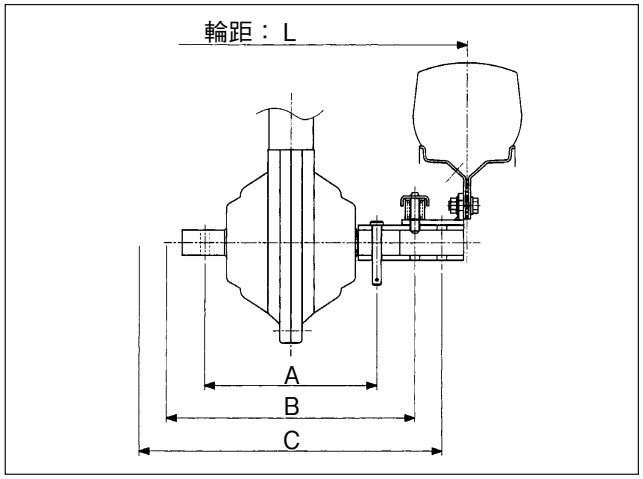


取扱いのポイント

●タイヤおよびアタッチメントを交換するため本機を大きく傾斜するときは、燃料コックレバーを《止》にしてください。
燃料コックを《止》めないで交換作業をすると燃料がオーバーフローし、エンジンが始動困難になることがあります。

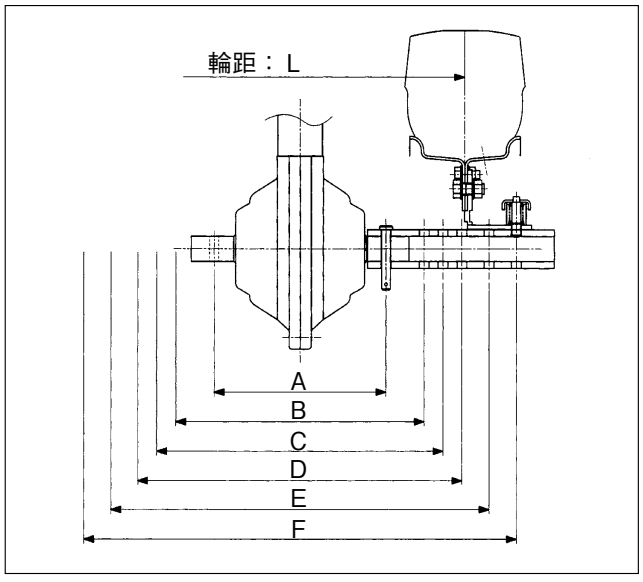
❶ ［458･558型］

寸法記号	ピン穴位置（㎜）	輪距：L（㎜）	
		ホイールボス外向	ホイールボス内向
A	158	—	—
B	228	—	320
C	278	180	370



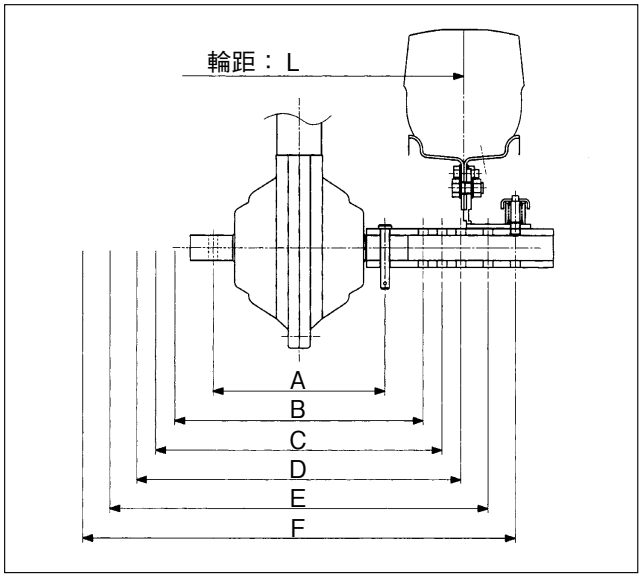
❷ ［458G･558L･558G･658型］

寸法記号	ピン穴位置（㎜）	輪距：L（㎜）	
		ホイールボス外向	ホイールボス内向
A	158	—	—
B	228	—	320
C	263	—	360
D	298	200	390
E	348	250	440
F	398	300	490



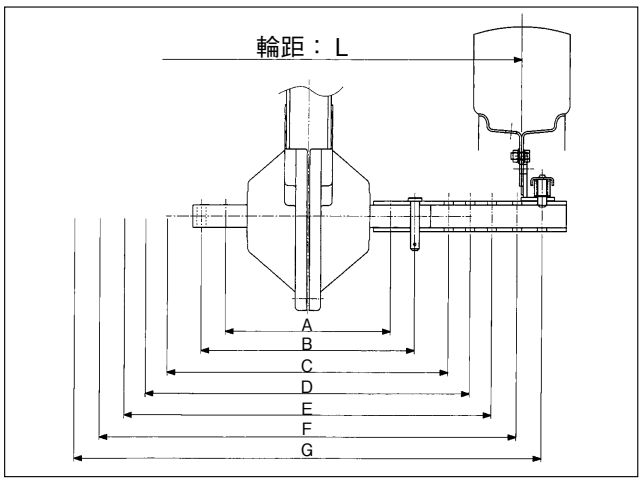
❸ [708型]

寸法記号	ピン穴位置 (mm)	輪距：L (mm)	
		ホイールボス外向	ホイールボス内向
A	172	—	—
B	242	—	330
C	277	—	370
D	312	210	400
E	362	260	450
F	412	310	500



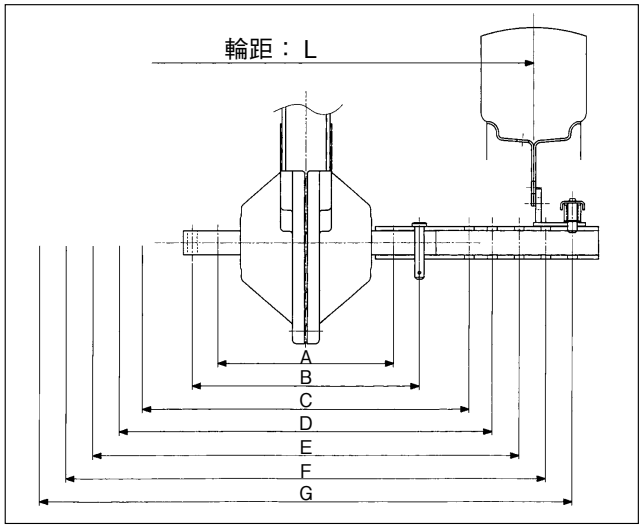
❹ [758・858型]

寸法記号	ピン穴位置 (mm)	輪距：L (mm)	
		ホイールボス外向	ホイールボス内向
A	191	—	—
B	247	190	300
C	325	270	380
D	375	320	430
E	425	370	480
F	483	430	540
G	541	490	600



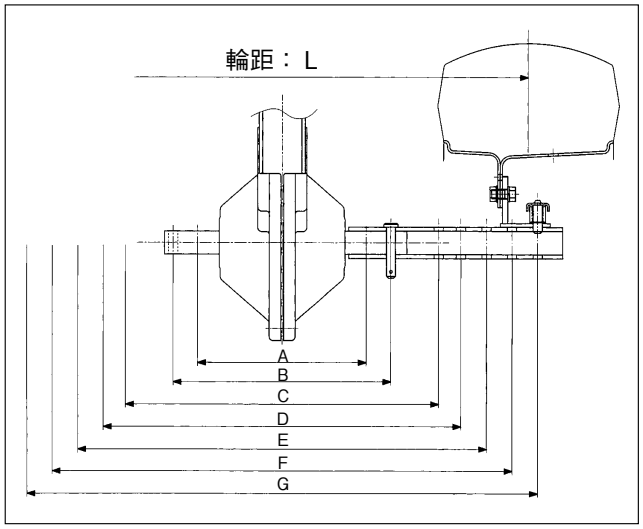
❺ [1058型]

寸法記号	ピン穴位置 (mm)	輪距：L (mm)	
		ホイールボス外向	ホイールボス内向
A	191	—	—
B	247	—	330
C	355	270	440
D	405	320	490
E	463	380	550
F	521	440	610
G	579	490	660



❻ [858P・1058P型]

寸法記号	ピン穴位置 (mm)	輪距：L (mm)	
		ホイールボス外向	ホイールボス内向
A	191	—	—
B	247	—	—
C	355	330	380
D	405	380	430
E	463	440	480
F	521	500	540
G	579	560	600



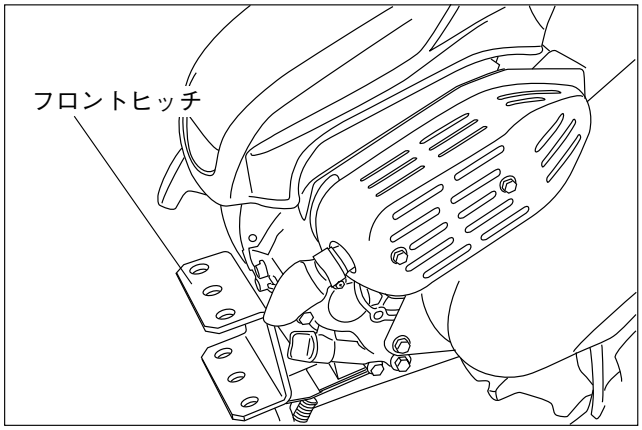
2. 作業機の取付け

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機の取付けは広い平坦な場所で本機を安定させ、作業機の取扱説明書に従って行なってください。
◆PTO軸より動力取出し作業をするときは、回転部が露出しないようにカバーを取付けてください。
◆作業機を取外した後PTO軸を使用しないときは、PTOキャップを取付けてください。

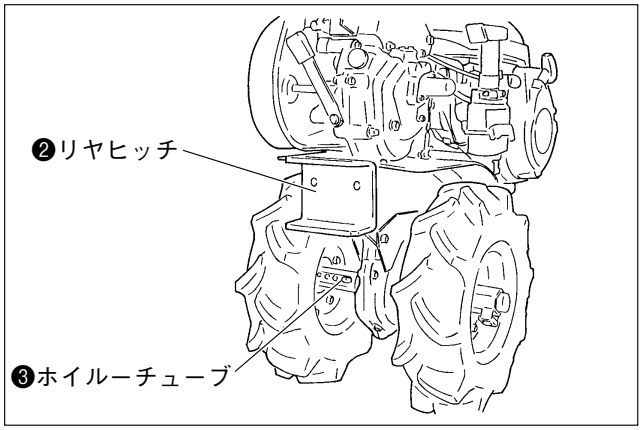
❶ フロントヒッチ

フロントウェイト・フロントキャリヤなどを取付けるときに使用します。



❷ リヤヒッチ

ロータリー・抵抗棒・培土板・マルチなどの作業機を本機に固定するときに使用します。

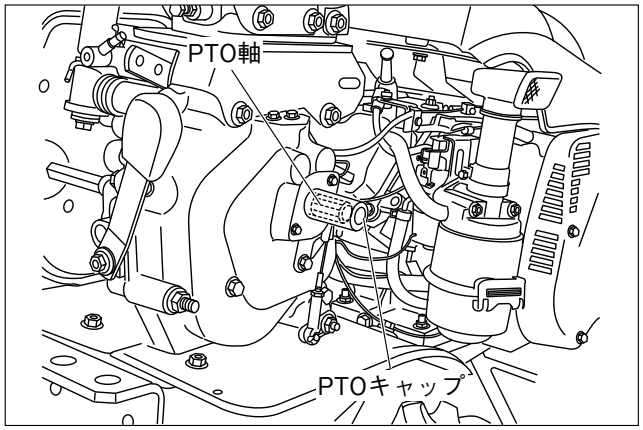


❸ 車輪とホイールチューブ

タイヤ・ロータリー・カゴ車輪などの車軸作業機を取付けるときに使用します。

❹ PTO軸

作業機を取付けて動力を取出すときは、PTOキャップを外しPTO軸に連結します。



3. ハンドルの調節

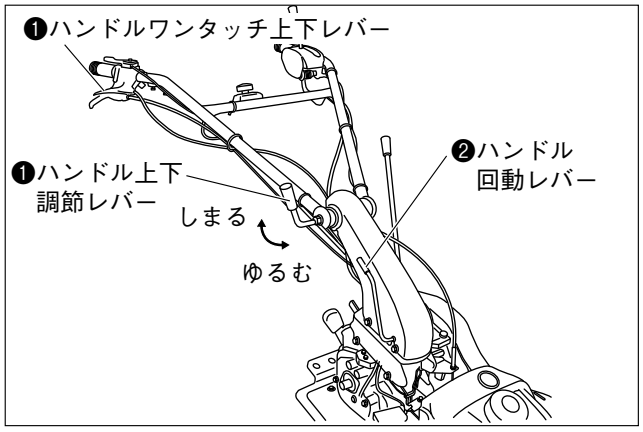
❶ ハンドルの高さ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドルの高さ調節時は、スタンドを立てるなどをして、ハンドルから手を離しても本機が安定している状態にしてください。

ハンドルは、使用する人の体格や作業の種類にあわせて使いやすい高さ（腰の位置を目安として）に調節します。

・ハンドルの高さを調節するときはハンドル上下調節レバーをゆるめ、使いやすい高さに調節します。
・調節後レバーをしめてハンドルを固定します。
・ハンドルワンタッチ上下レバー［558・658・708・758・858・1058型］で、3段階の調節ができます。



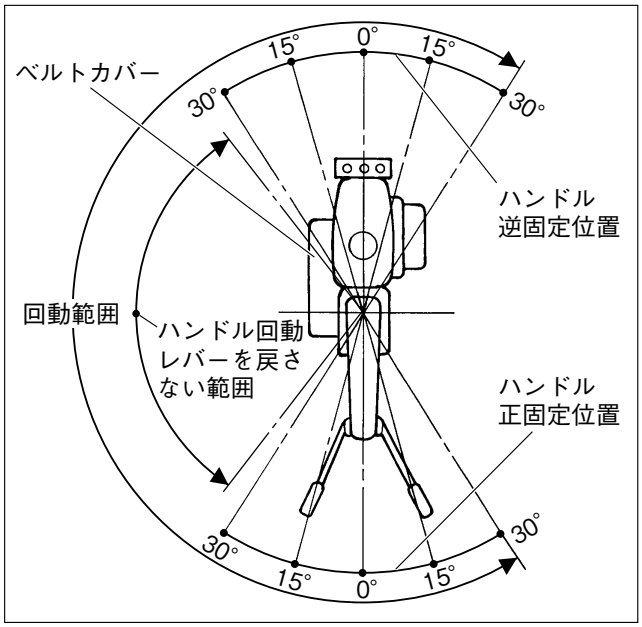
❷ ハンドル回動

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドルを逆向きにするときは高速停止ノブをゆるめ《高速停止》位置に固定してください。
《高速停止》位置に固定しないと、本機が作業者に向かって高速で発進し、思わぬ事故になることがあります。

作業に合わせて使いやすい角度にセットして使用します。

・ハンドル正位置、逆向き共、左右にそれぞれ２段の調節ができます。（固定位置は図の10箇所です。）
・ハンドル回動レバーを押し下げて、ハンドルを使いやすい位置まで回します。ハンドル回動レバーから手を離しハンドルをさらに回すとレバーが戻りハンドルが固定されます。



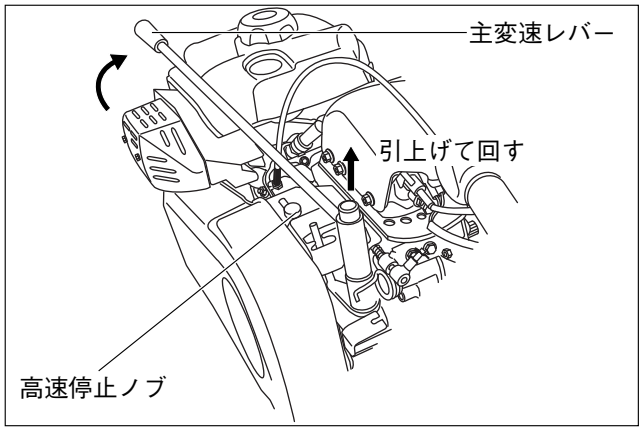
取扱いのポイント

●サイドクラッチを握ったままでハンドルは回動できません。
●ハンドルを回動するときは、ベルトカバー側に回動してください。反対側には回動しないでください。無理に回動しようとすると回動規制ストッパが破損することがあります。
●ハンドル回動途中のハンドル回動レバーを戻さない範囲ではレバーから手を離さず押し続けてください。

4. 主変速レバーの回動

主変速レバーはハンドルの回動位置に合わせて操作しやすい位置にセットします。

・主変速レバーの根元部を持ち、引上げてから回します。操作しやすい位置におろしてセットします。



2. ほ場作業のしかた

1. ほ場への出入りのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場への出入りやあぜ越えは作業機の回転を止めて行なってください。
◆ほ場への出入りやあぜ越えは、《低速》であぜに直角に行なってください。
◆ほ場への出入り・あぜ越え・アユミの上ではサイドクラッチ操作や主クラッチ操作、変速操作をしないでください。
◆高あぜ・急傾斜・溝越えは耕うん爪のひっかからない、隙間がなくすべらない処理がしてあるアユミを使用してください。
◆あぜがくずれないことを確認してから、ゆっくり行なってください。
◆後進するときは、後方に溝や障害物がないことを確認してから後進してください。

❶ エンジン回転を低速にします。
❷ 副変速レバーは**《低速》**、主変速レバーは前進の１速にします。
❸ あぜに直角に走行します。
❹ アユミを使用するときは、**「自動車への積み降ろし」**の内容に従って行います。

2. 作業に適した速度の選びかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ベルトの掛替えはエンジンを停止してから行なってください。
◆ハンドルの逆向き作業時は、高速停止ノブを《高速停止》位置に固定してください。《高速停止》位置に固定しておかないと本機が作業者に向かって高速で発進するなど思わぬ事故になることがあります。

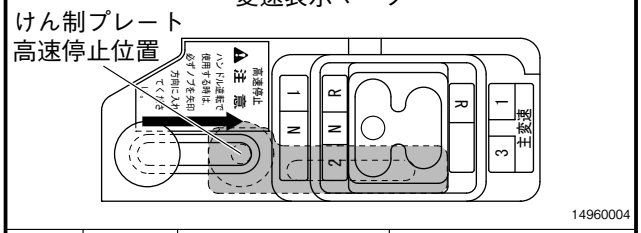
◆ハンドル逆位置のときは、《高速停止》を解除しないでください。

❶ ［458型］

主変速レバーとベルトの掛替えで次の変速ができます。

・ハンドル正位置のときは**《高速停止》**を解除し前進６段・後進２段の変速ができます。
・ハンドル逆位置のときは**《高速停止》**に固定します。前進２段・後進２段の変速ができます。

変速表示マーク



ハンドル向き	変速		変速レバー位置 主変速	副変速(ベルト掛替)	適応作業
正位置	前進	1	1	低速	ロータリー作業
		2	1	高速	ロータリー・マルチ作業
		3	2	低速	マルチ作業
		4	2	高速	中耕作業
		5	3	低速	ローター作業
		6	3	高速	除草作業
	後進	1	R	低速	——
		2	R	高速	
逆位置	前進	1	1	低速	覆土作業
		2	1	高速	運搬作業
	後進	1	R	低速	畝作り作業
		2	R	高速	——
	上記以外は**《高速停止》**し、使用しないでください。				

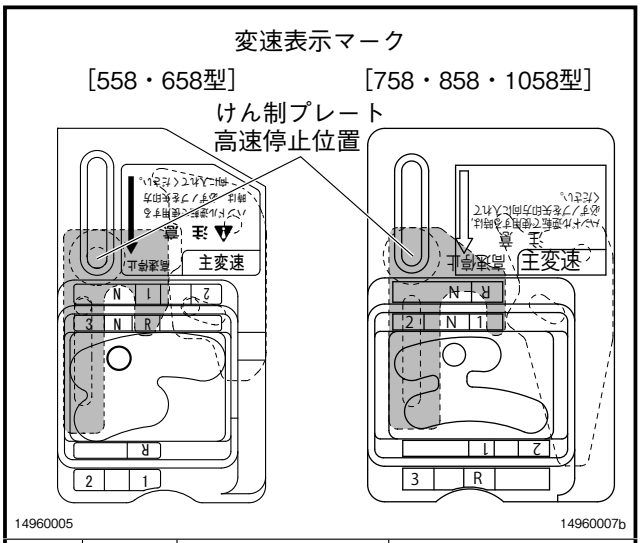
PTO軸回転数（rpm）

ベルト掛替低速	776
ベルト掛替高速	1271

❷ ［558･658･758･858･1058型］

主変速レバーと副変速レバーの組合わせで次の変速ができます。

・ハンドル正位置のときは《**高速停止**》を解除し、前進６段・後進２段の変速ができます。
・ハンドル逆位置のときは《**高速停止**》に固定します。前進４段・後進２段の変速ができます。
・［**1058型**］では、車軸耕うん作業はできません。
・４速以下では、車軸耕うん作業はできません。

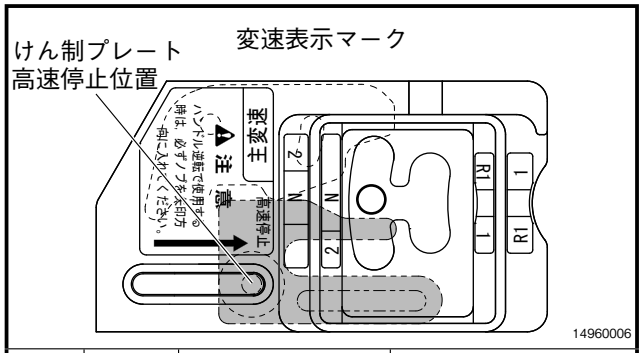


ハンドル向き	変速		変速レバー位置 主変速	副変速	適応作業
正位置	前進	1	1	低速	ロータリー作業
		2	1	高速	ロータリー・マルチ作業
		3	2	低速	中耕作業
		4	3		
		5	2	高速	深耕・ローター作業
		6	3		除草作業
	後進	1	R	低速	——
		2	R	高速	
逆位置	前進	1	1	低速	覆土作業
		2	2		
		3	1	高速	運搬作業
		4	2		
	後進	1	R	低速	畝作り作業
		2	R	高速	——
	上記以外は《**高速停止**》し、使用しないでください。				

❸ ［708型］

主変速レバーと副変速レバーの組合わせで次の変速ができます。

・ハンドル正位置のときは《**高速停止**》を解除し、前進４段・後進２段の変速ができます。
・ハンドル逆位置のときは《**高速停止**》に固定します。前進４段・後進２段の変速ができます。



ハンドル向き	変速		変速レバー位置 主変速	副変速	適応作業
正位置	前進	1	1	低速	ロータリー作業
		2	1	高速	ロータリー・マルチ作業
		3	2	低速	中耕作業
		4	2	高速	深耕・ローター作業 除草作業
	後進	1	R1	低速	——
		2	R1	高速	
逆位置	前進	1	1	低速	覆土作業
		2	2		
		3	1	高速	運搬作業
		4	2		
	後進	1	R1	低速	畝作り作業
		2	R1	高速	——
	上記以外は《**高速停止**》し、使用しないでください。				

PTO軸回転数（rpm）

558型	732
658型	745
708型	
758型	654
858型	698
1058型	

3. 上手なほ場作業のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

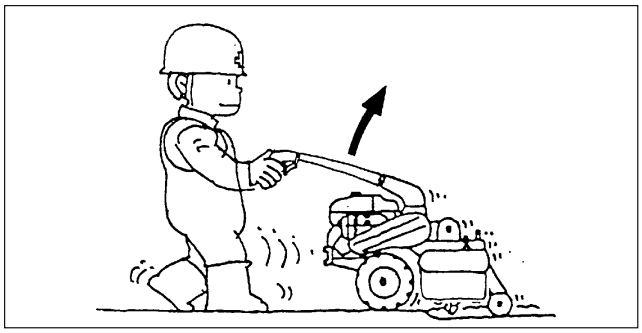
◆後進するときは、後方に溝や障害物がないことを確認してから後進してください。

❶ ロータリー作業中の移動・後進はロータリー爪の回転を止め、足元に気をつけて行います。

❷ 後進作業はハンドルを逆向きにし、後方に障害物がないことを確かめます。障害物やハウスの壁と本機の間にはさまれないよう後方を確認して行います。

❸ ハンドル逆向き作業時は高速停止ノブを《**高速停止**》の位置に固定します。

❹ ハンドル逆向きでロータリー作業などを行うときは、旋回時にハンドルワンタッチ上下レバー（558・658・708・758・858・1058型）でハンドルを上に上げてからロータリーを持ち上げると容易に旋回ができます。



❺ 深耕用ローターでの耕うん時はローターが土から出てからサイドクラッチ操作をします。作業前や旋回した後は、サイドクラッチを操作して、ローターの左右の爪位置の位相を合わせて、同時に打込むようにします。

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に本機を置いて、エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮しいつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し、必要により掃除・調整・整備を行います。

「定期点検整備表」（点検○、交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検間隔				参照ページ
			シーズン前	30時間毎	50時間毎	格納時	備考
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○（毎日作業前）	●（初回のみ）	●	○	27～28
	エアクリーナーオイル・エレメント	点検・掃除・補給	○（毎日作業前）			○	27、29、30
	燃料ストレーナー	点検・掃除	○（毎日作業前）			○	30
	燃料ホースの劣化と燃料漏れ	点検・交換	○（毎日作業前）			○	31
	燃料タンクの燃料	補給・抜取り	○（毎日作業前）			抜取り	27、28、38
	気化器の燃料	抜取り				抜取り	5、38
	点火プラグ	点検・掃除・交換			○	○	30～31
	エンジン取付ボルト	点検・増締	○			○	―
本機関係	ミッションケースオイル	点検・補給・交換	○	●（初回のみ）	●	○	27、29
	各操作レバー軸・テンションプーリー回動支点・ワイヤーの注油	注油	○（毎日作業前）			注油	27、29
	各操作レバーの作動	点検	○（毎日作業前）			○	33～36
	主クラッチ	点検・調整	○（毎日作業前）		○	○	32～33
	サイドクラッチ	点検・調整	○（毎日作業前）		○	○	33～34
	Vベルトの伸び	点検・調整	○		○	○	32
	ボルト・ナットのゆるみ	点検	○			○	―
	タイヤ	点検	○（毎日作業前）			○	31

取扱いのポイント

●本機または、部品などを廃棄するときは「お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所」にご相談ください。
●使用済み廃棄物の処理について
■廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり法令により処罰されます。
■廃棄物を処理するときは
○本機から廃液を抜く場合は容器に受けてください。
○地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
○廃油、燃料、フィルタ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または処分するときは「お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所」または産業廃棄物処理業者などに相談して所定の規則に従って処理してください。

2. 給油・注油のしかた

・工場出荷時は各給油箇所にオイルが入れてありませんので、給油表に従って給油してください。
・オイルの点検・交換は、**「運転前の点検表」**(11ページ参照）および**「定期点検整備表」**(26ページ参照）に従って行います。
・オイルの点検・交換は本機を平坦な場所に置いて行います。

取扱いのポイント

- **各給油箇所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると、故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **交換したオイルを廃却するときは「お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所」または、産業廃棄物処理業者などに相談して所定の規則に従って処理してください。**

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときはエンジンを停止し、各部の動きが止まってから注油してください。

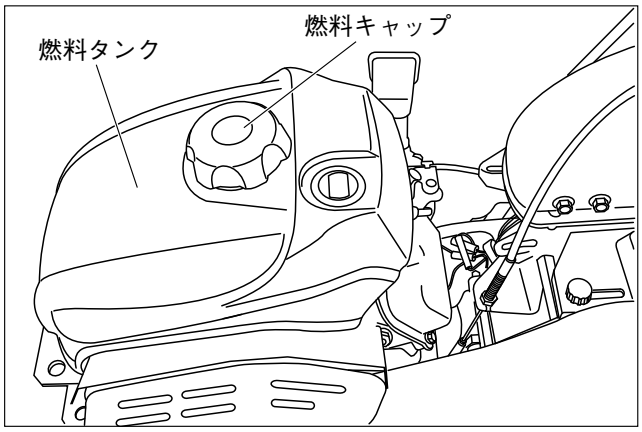
⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油しないでください。またオイル交換もしないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料漏れがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆マフラー、マフラー排気口に触れないでください。

「給油・注油表」

	No.	給油・注油箇所	種類	分類 API サービス分類	分類 SAE 粘度番号	容量（L）		備考
給油	①	燃料タンク	無鉛ガソリン	−	−	458･558･658･708型	2.8	・始業時点検（必要量補給）
						758･858･1058型	4.0	
	②	エンジン	純正油 またはエンジンオイル	SD級以上	10W－30	458・558・658・708型	0.6	・初回30時間または１年後のどちらか早い方 ・以降50時間毎または２年毎のどちらか早い方
						758･858･1058型	1.2	
	③	ミッションケース	純正油 またはギヤオイル	GL－4級以上	80W または 90	458型	1.8	・初回30時間または１年後のどちらか早い方 ・以降50時間毎または２年毎のどちらか早い方
						558･658･708型	2.0	
						758･858･1058型	3.2	
	④	エアクリーナー	純正油 またはエンジンオイル	SD級以上	10W－30	オイルレベルまで		・始業時点検
注油	⑤	摺動部（ワイヤー類）				適量		
	⑥	主クラッチレバー軸						
	⑦	主変速レバー軸						
	⑧	テンションプーリー軸						

1．燃料の補給



エンジンが水平になる場所に停車し燃料キャップを外して給油口より補給します。

・燃料……自動車用無鉛ガソリン

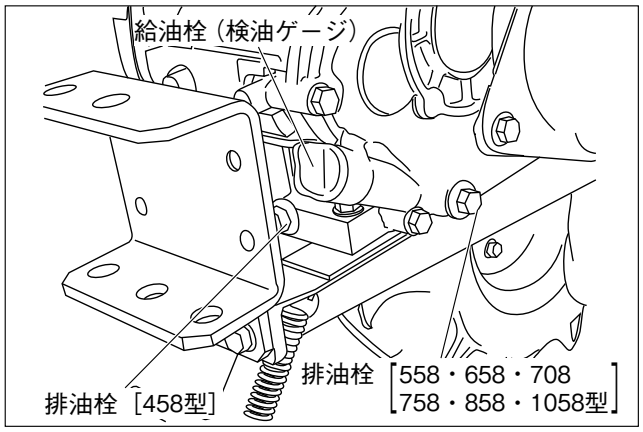
・タンク容量…2.8L［458・558・658・708型］

4.0L［758・858・1058型］

取扱いのポイント

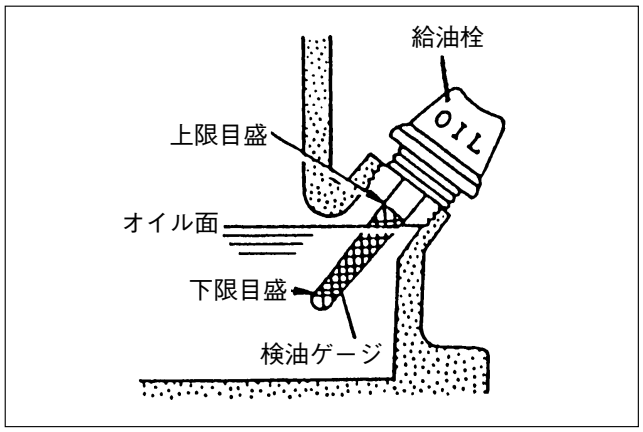
●燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように給油します。

2．エンジンオイルの点検・交換



❶ **点検**……エンジンが水平になる場所に停車し、給油栓を外し検油ゲージ面をきれいにふき取ってから差込みます。(ねじ込まない)

・ゲージの上限と下限の間に油面があるか確認し、不足している場合は補給します。



❷ **交換**……排油栓を外し、オイルを抜きます。オイルが完全に抜けたら排油栓を確実に締め、新しいオイルをオイルゲージの「**上限**」まで給油します。

・オイル…… **純正油** または

ガソリンエンジン用オイル

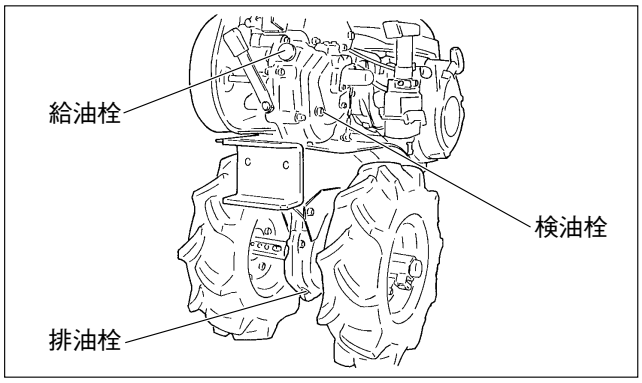
API・SD級以上

SAE・10W－30

・オイル量…0.6L［458・558・658・708型］

1.2L［758・858・1058型］

3. ミッションケースのオイル点検・交換



❶ **点検**……検油栓を外し油量が口元まであるか調べます。

・不足している場合は給油栓を外して補給します。

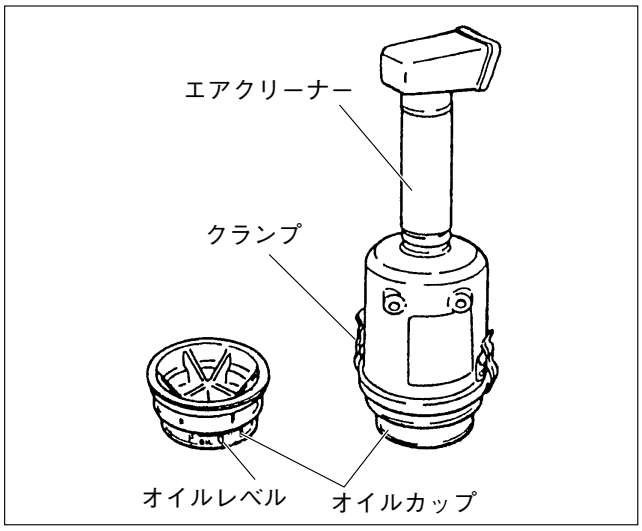
❷ **交換**……⑴ ケース下部の排油栓を外しオイルを完全に抜きます。

⑵ 排油栓を確実に締め、新しいオイルを給油栓より検油栓の口元まで給油します。

・オイル…… (**純正油**) または、
ギヤオイル
API・GL－４級以上
SAE・80W

・オイル量…**1.8L［458型］**
2.0L［558･658･708型］
3.2L［758･858･1058型］

4. エアクリーナーのオイル補給



❶ **補給**……オイルカップのオイルレベルライン（規定量位置）までオイルがあるか確認します。

・不足している場合はクランプを倒してオイルカップを外し、オイルレベルライン（規定量位置）までオイルを補給します。

・オイル…… (**純正油**) または、
ガソリンエンジン用オイル
API・SD級以上
SAE・10W－30

・オイル量…オイルレベルライン位置

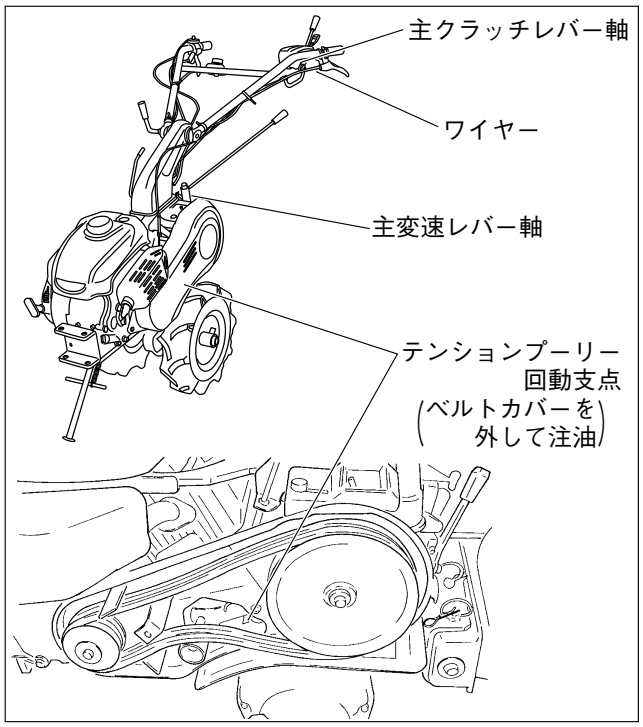
5. 注油箇所

❶ **注油**……油差しで注油します。

・オイル…… (**純正油**) または、
ガソリンエンジン用オイル
API・SD級以上
SAE・10W－30

・オイル量…適量注油

・注油箇所…ワイヤー類・主クラッチレバー軸・主変速レバー軸・テンションプーリー回動支点



3. 各部の点検と掃除のしかた

⚠危険 火災防止のために

◆エレメント、ネットの洗浄にガソリンは使用しないでください。
◆作業時は火気を近づけないでください。
◆換気の良い場所で行なってください。

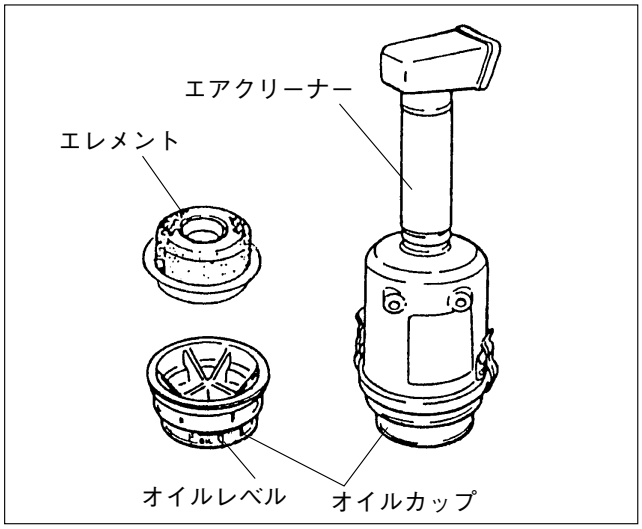
1. エアクリーナーの掃除

吸入空気は、オイルカップのオイルによって浄化します。

エアクリーナーエレメントを汚れたままで使用すると、エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

❶ オイルが不足しているときはオイルカップのオイルレベルラインまで補給します。

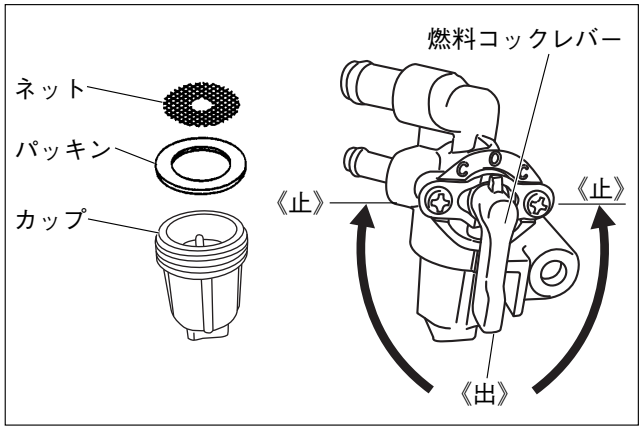
❷ オイルが汚れているときはオイルカップとエレメントを外して灯油で洗浄し、エレメントは灯油を振切って取付けます。オイルカップにエンジンオイルをオイルレベルラインまで入れます。



2. 燃料ストレーナーの掃除

ストレーナーカップに水またはゴミがたまっていないか点検します。

燃料コックレバーを《止》にし、カップとネットを取外しカップ内の沈殿物を除去し、ネットも清掃します。



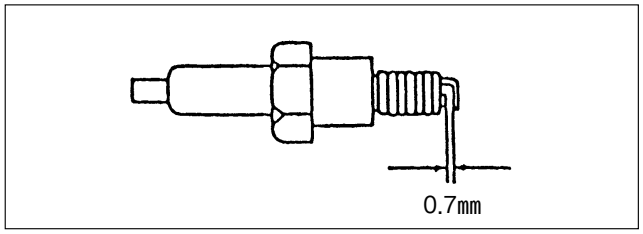
3. 点火プラグの点検と掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆リコイルスターターを引くときにプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

❶ プラグキャップを外して付属のボックスレンチで点火プラグを外します。

❷ 点火プラグについているカーボンを取除き、電極スキマが「0.7㎜」になるように点検調整します。



❸ 電極部が損耗または破損しているときは新しい点火プラグと交換します。

❹ 点火プラグを取付け後、プラグキャップを確実に差込みます。

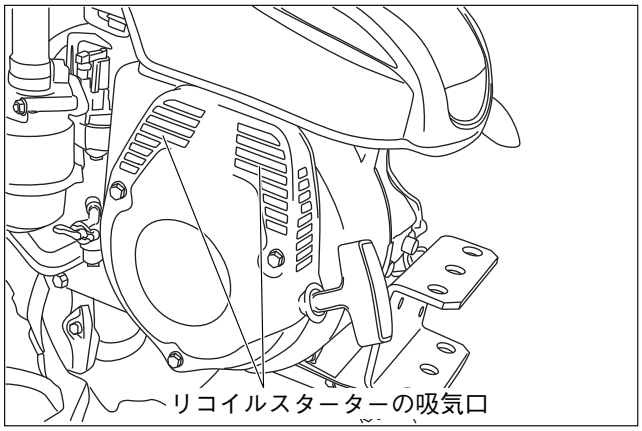
・使用点火プラグ…NGK－BP6HS［458・558・658・708型］
NGK－BP5ES［758・858・1058型］

取扱いのポイント

- **プラグキャップを外したままでリコイルスターターの握りを引かないでください。**
- **点火プラグをエンジン側にアースしないでリコイルスターターの握りを引かないでください。エンジンの電気回路の故障になります。アースして点検してください。**
- **点火プラグの電極スキマを調整してもエンジンが始動しないときは新しい点火プラグと交換してください。**

4. リコイルスターターの掃除

リコイルスターター部の吸気口はきれいに掃除しておきます。ワラクズ、ゴミなどの付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。(ここからエンジンの冷却風が吸込まれます。)



5. 燃料ホースの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

◆燃料ホースの損傷、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し、漏れている場合は火災の原因となりますので交換してください。

燃料ホースの劣化や傷による燃料もれがないか、また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

傷んでいなくても２年ごとに交換します。

6. タイヤの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

◆タイヤの空気圧を守ってください。空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）とタイヤが破損し、死傷事故につながることがあります。

◆タイヤに傷がありその傷がコード（糸）に達している場合は、タイヤが破損するおそれがありますので使用しないでください。

◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」に相談してください。

・タイヤに亀裂など損傷がないか点検します。
損傷のひどい場合はタイヤを交換します。

・タイヤの空気圧を調整します。

空気圧

タイヤサイズ	空気圧kPa(kgf／㎠)
100/85D6－2PR 17×8.00－8－4PR	160(1.6)
4.00－7－2PR 4.00－8－2PR 4.00－9－2PR	120(1.2)

4. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し、正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は本機を平坦な場所に置きエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
◆調整後は異常なく作動することを試運転で確認してください。

1. 主クラッチの調整

⚠警告 傷害事故防止のために

◆主クラッチの調整はエンジンを停止して行なってください。
◆エンジンを始動してベルトの作動、停止を確認するときは他の人や物を遠ざけ、エンジンプーリーやベルトに手や足を出さないでください。
◆調整後はベルトカバーを取付けてください。
◆ベルトを張りすぎないでください。ベルトを張りすぎると主クラッチが切れず、事故を起こす恐れがあります。

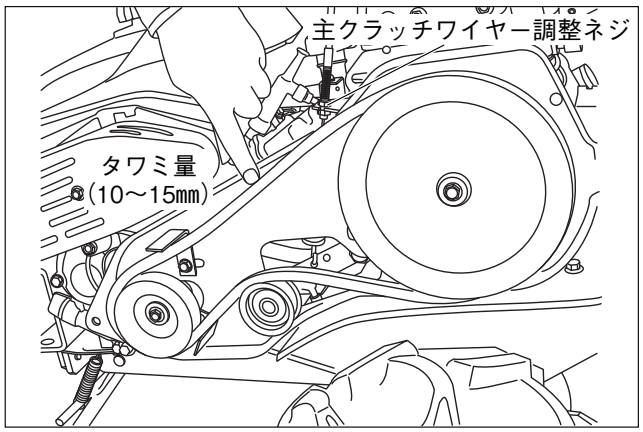
主クラッチレバーはベルトテンション式です。

主クラッチの調整が悪く、ゆるいとVベルトのスリップにより作業能率および性能が低下し、Vベルトの損傷も早くなります。また張りすぎると主クラッチが切れず、本機が停止できなくなることがあります。

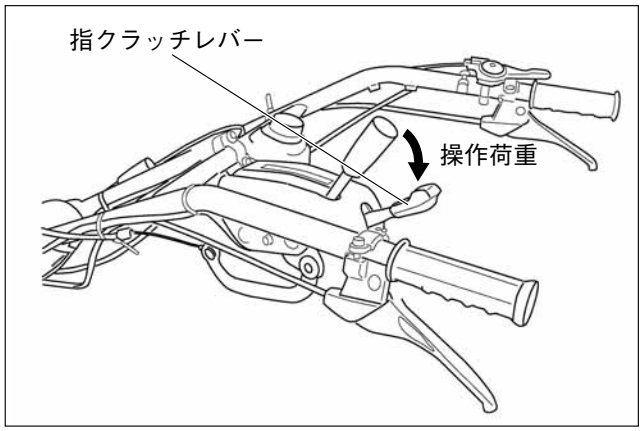
エンジンを停止しベルトカバーを外します。

❶ **点検**……主クラッチレバーを《**入**》にした状態でベルトの中央部を指で押さえたとき、ベルトのタワミ量が 10～15 mm ですか。

❷ **調整**……(1) 主クラッチワイヤー調整ネジで調整します。



(2) 指クラッチレバーの操作荷重を調整するときは、押え部での「**操作荷重**」を主クラッチワイヤー調整ネジで調整します。



指クラッチレバーの操作荷重

458型	34～39N {3.5～4.0kgf}
558・658型	44～49N {4.5～5.0kgf}
708・758・858・1058型	54～59N {5.5～6.0kgf}

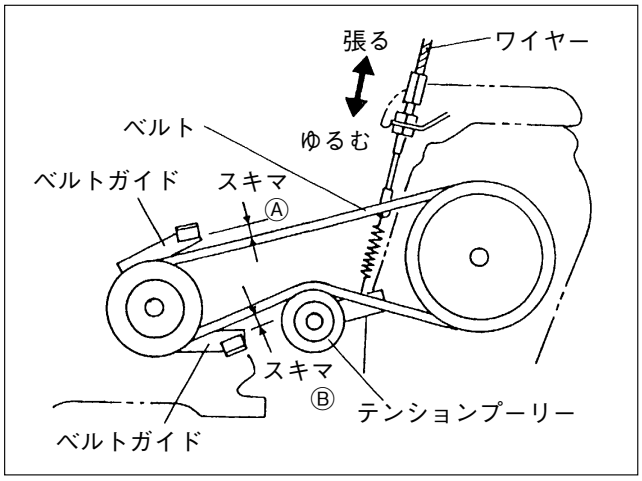
2. ベルトガイドの調整

主クラッチ（ベルト、ワイヤー）、エンジン位置を調整したときはベルトガイドの位置も点検、調整します。

［458型］はベルトを《低速》側にセットして行います。

❶ **点検**……主クラッチレバーを《**入**》にした状態でベルトとベルトガイドのスキマⒶ、Ⓑが表の値になっていますか。

❷ **調整**……⑴ ベルトガイドの位置を調整し、固定します。



ベルトとベルトガイドのスキマ

	スキマⒶ	スキマⒷ
458型	5.5～7.5㎜	5.5～7.5㎜
558・658型	4.0～6.0㎜	2.5～4.5㎜
708型	4.0～6.0㎜	4.0～7.0㎜
758・858・1058型	4.0～6.0㎜	7.0～9.0㎜

⑵ 主クラッチレバーを《**切**》にし、主変速レバーを《**中立**》にして、エンジンを始動します。
主クラッチレバーを操作し《**切**》のとき、ベルトが静止すれば調整は完了です。

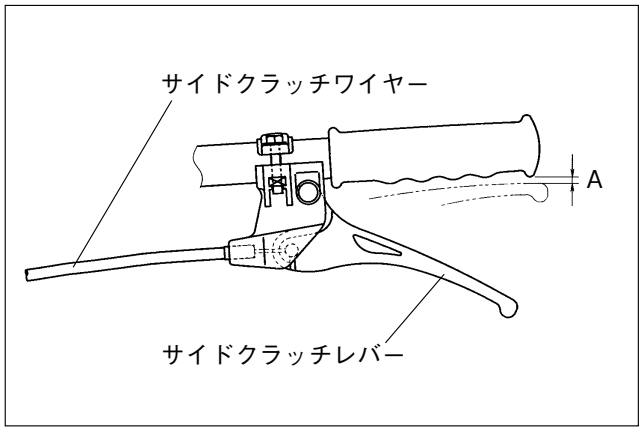
3. サイドクラッチの調整

サイドクラッチは特殊ボール式爪クラッチです。

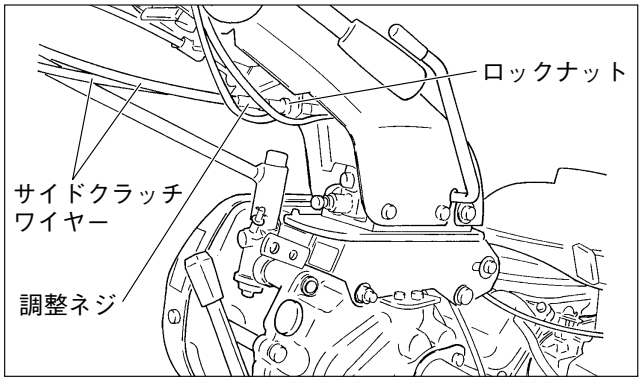
サイドクラッチワイヤーを張りすぎると車軸に負荷がかかったときサイドクラッチが外れることがあります。

またサイドクラッチレバーに遊びが多いとサイドクラッチが「**切**」れないことがあり、思わぬ事故の原因になることがあります。

❶ **点検**……サイドクラッチレバーを握ってサイドクラッチが「**切**」れたときの「**A寸法**」が 15～20㎜ ありますか。



❷ **調整**……(2) サイドクラッチワイヤーの調整ネジで調整後、ロックナットで固定します。



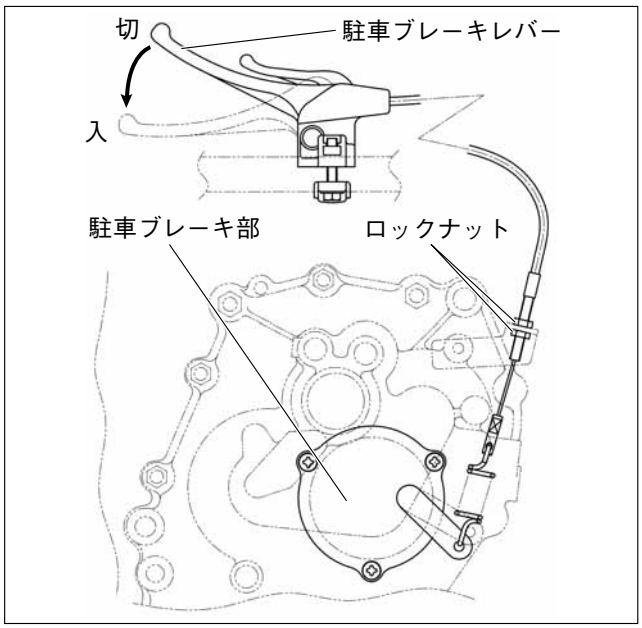
(2) 調整が終わったらハンドル回動操作をして、ハンドル正位置のときおよび逆向きのときに、サイドクラッチが「**切**」れることを確認します。

4. 駐車ブレーキの調整

[708・758・858・1058型]

❶ **点検**……駐車ブレーキを《**入**》にしたときブレーキが効いていますか。

❷ **調整**……駐車ブレーキレバーの操作荷重が 59～78N {6～8kgf} でブレーキが効くようにロックナットを調整します。



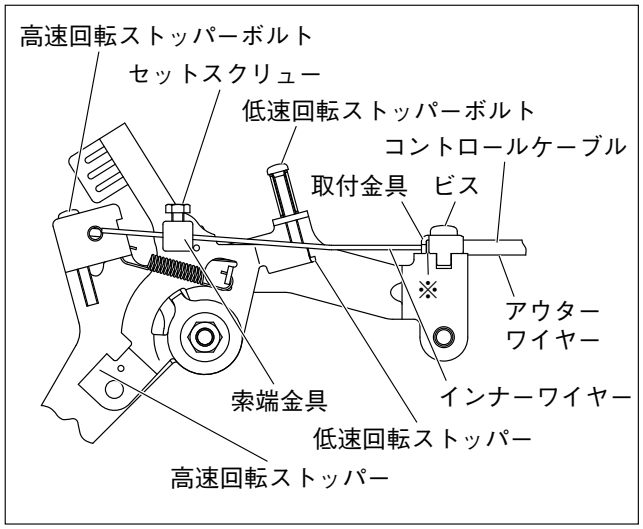
❸ 調整後、駐車ブレーキを《**入**》にしたとき本機が動かないことを確認します。

5. コントロールケーブルの調整

コントロールケーブル先端部のセット位置が悪いとスロットルレバーを《**低速**》位置にしてもエンジンのアイドリングが高かったり、《**高速**》位置にしても、最高回転に達しない場合があります。

[458・558・658・708型]

❶ **点検**……スロットルレバーをいっぱい《**低速**》にした位置で低速回転ストッパーが低速回転ストッパーボルトにあたっていますか。



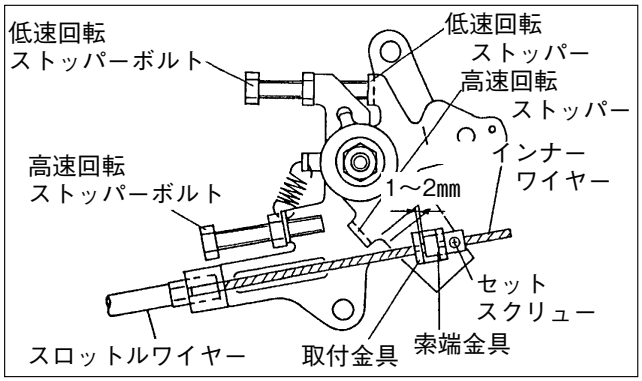
❷ **調整**……(1) アウターワイヤー先端を取付金具の※印部に押しあてビスで固定します。

(2) インナーワイヤーを索端金具に差込み、セットスクリューで固定します。

❸ エンジンを始動し、スロットルレバーを操作して《**低速**》位置にしたとき、低速回転ストッパーが低速回転ストッパーボルトにあたり、《**高速**》位置にしたとき、高速回転ストッパーが高速回転ストッパーボルトにあたることを確認します。

[758・858・1058型]

❶ **点検**……⑴ スロットルレバーを、いっぱい《**低速**》にした位置でエンジン側の取付金具と索端金具との間に 1～2㎜ の遊びがありますか。

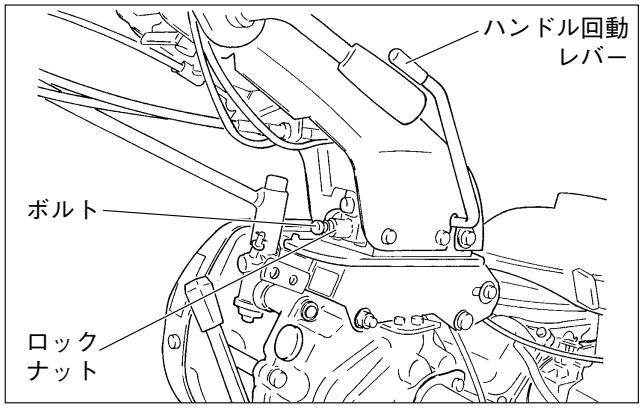


❷ **調整**……⑴ 遊びを 1～2㎜ にし、索端金具をセットスクリューで固定します。

⑵ エンジンを始動し、スロットルレバー操作して《**低速**》位置にしたとき、低速回転ストッパーが低速回転ストッパーボルトにあたり、《**高速**》位置にしたとき、高速回転ストッパーが高速回転ストッパーボルトにあたることを確認します。

6. ハンドル回動レバーの調整

❶ **点検**……ハンドル回動レバーを押し下げたときハンドルが左右に回動できますか。



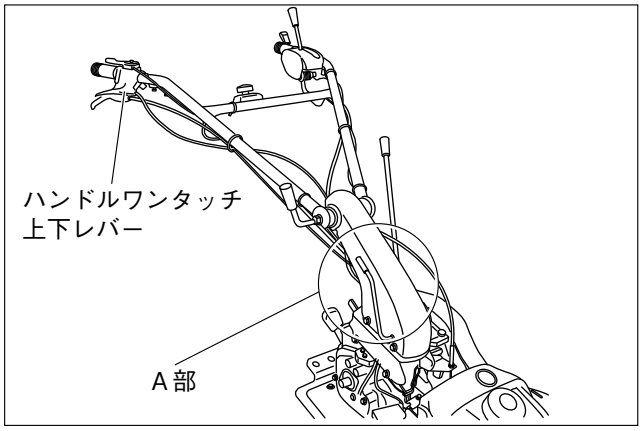
❷ **調整**……ボルトを半回転程ゆるめます。ハンドルが左右に回動できればボルトをロックナットで固定します。

7. ハンドルワンタッチ上下レバーの調整

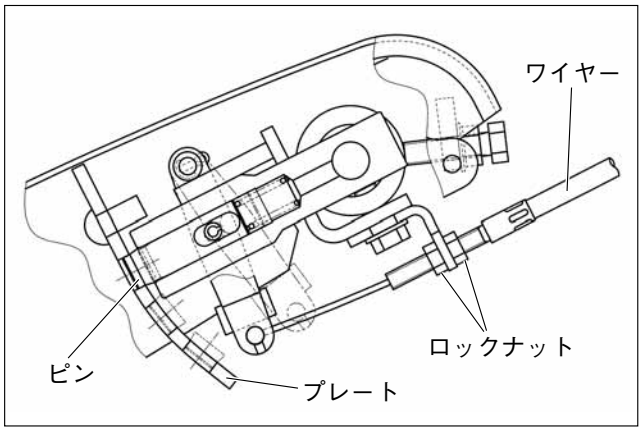
[558・658・708・758・858・1058型]

❶ **点検**……ハンドルワンタッチ上下レバーを操作したとき、ハンドルが上下にセットできますか。

❷ **調整**……ハンドルを上下にセットしたときにプレートの穴にピンが入るようにロックナットで調整します。



（A部詳細）



長期格納のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部に付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときはエンジンを停止し、各部の回転が停止してから行なってください。

◆高温部が冷えてからエンジン・マフラー・燃料タンク周囲のワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

シーズンが終わったら「**定期点検整備表**」(26ページ参照）の「**格納時**」の項目について点検・整備および掃除を行い、更に次の処置をします。

1．本機の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・草などを取除き汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。

❷ 塗装がはげた箇所は補修塗料を塗り、本機のサビやすい箇所にはグリスかオイルを塗布します。

❸ 回転部・しゅう動部・ワイヤー類には注油しサビないようにします。

❹ サビやすい箇所（ローター軸など）に注油します。

取扱いのポイント

●エンジンが熱いときは水をかけないでください。

●エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。

●洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って正しく使用してください。

⚠警告 ヤケド、火災、傷害事故防止のために

本機を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると

1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

2．油圧ホース破損により高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。

3．本機の破損・損傷・故障の原因になります。

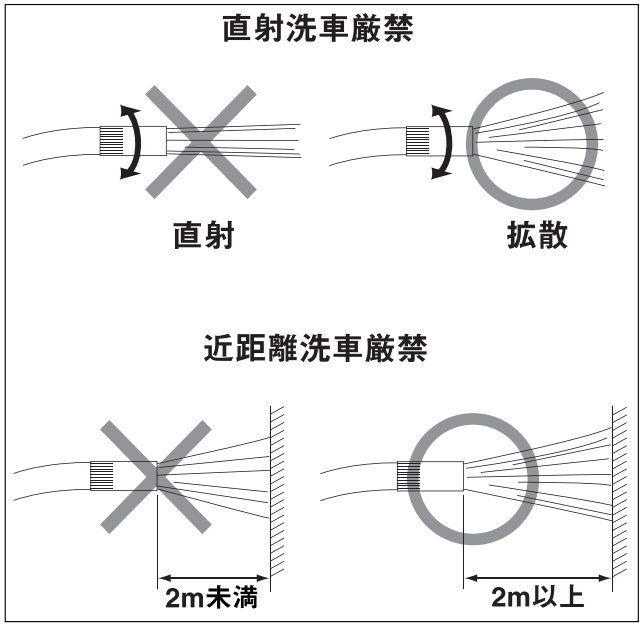
例）

（1）シール・ラベルの剥がれ

（2）電装部品、エンジンなどへの水の侵入による故障

（3）タイヤ、オイルシールなどのゴム類、化粧カバーなどの樹脂部品、ガラスなどの破損

（4）塗装、メッキ面の皮膜剥がれ



2. エンジンの手入れ

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

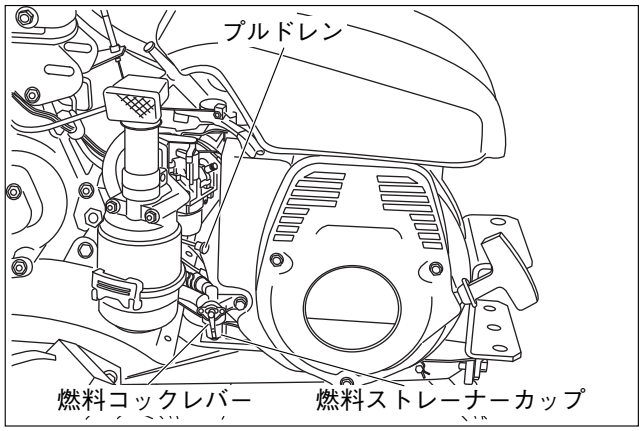
◆燃料取扱い時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油しないでください。またオイル交換もしないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料漏れがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆マフラー、マフラー排気口に触れないでください。

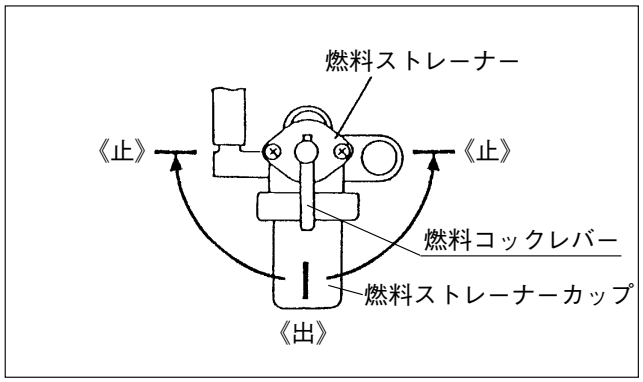
❶ エンジンオイルを交換します。
オイル交換時はアイドリング回転で５分間程度運転し、各部にオイルをゆきわたらせてから停止します。

❷ スロットルレバーはいっぱい《**低速**》位置にしておきます。

❸ 本機を１ヶ月以上使用しないときは燃料変質による始動不良または運転不調にならないように、燃料タンク・燃料ストレーナー・気化器の燃料を抜きます。その際、燃料は適切な容器で受けてください。

⑴ 燃料タンクの燃料を給油ポンプで抜き、残量分は燃料ストレーナーカップを外して抜きます。
⑵ 気化器のプルドレンを引き気化器内の燃料を抜取ります。
⑶ 燃料を抜き終わったら燃料ストレーナーカップを取付け、燃料コックレバーを《**止**》位置にします。
⑷ 燃料を抜くために外したりゆるめた箇所は元の状態に戻しておきます。





取扱いのポイント

●気化器はむやみにいじらないでください。
●長期間（１ヶ月以上）使用しないときは燃料腐食で気化器内部を腐食させるので、燃料タンクおよび燃料ストレーナーの燃料を抜いた後、気化器のプルドレンを引き燃料を抜取ってください。その際、燃料は適切な容器で受けてください。
●点火プラグを外しエンジンスイッチが《始動》位置でリコイルスターターを引くと、エンジンの電気回路が故障しますのでやめてください。

3. 格　納

⚠警告　火災防止のために

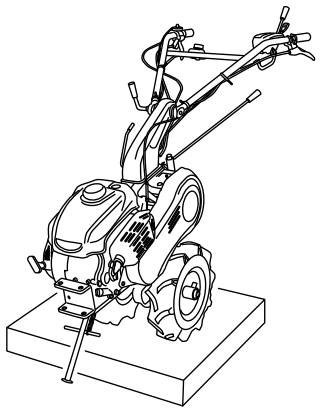
◆本機にカバーをかけるときはエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときにカバーをかけると火災になることがあります。

本機の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内を選び、カバーをかけて保管します。

❶　主クラッチレバーは《**切**》にしてＶベルトの張りを解除しておきます。

❷　「**ゴムタイヤ**」の場合は、日光の直射をさけて屋内で車輪に木台などを敷き、その上に本機をのせます。

❸　タイヤの空気圧を点検し、減っていれば補充します。



取扱いのポイント

●サビの発生を防止するため塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。

4. 再使用するときは

格納後はじめて使用するときには、定期点検整備表のシーズン前点検を行なった後に運転します。（26ページ参照）

不調時の処置

・不調が発生したらすぐにその原因を調べて処置をし、故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や、調整しても再発するときは**「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」**に相談し点検を受けてください。
・そのときは不調の状況とあわせて**「商品名（区分）」・「機械番号（製造番号）」・「エンジン番号」**をお知らせください。（1ページ参照）

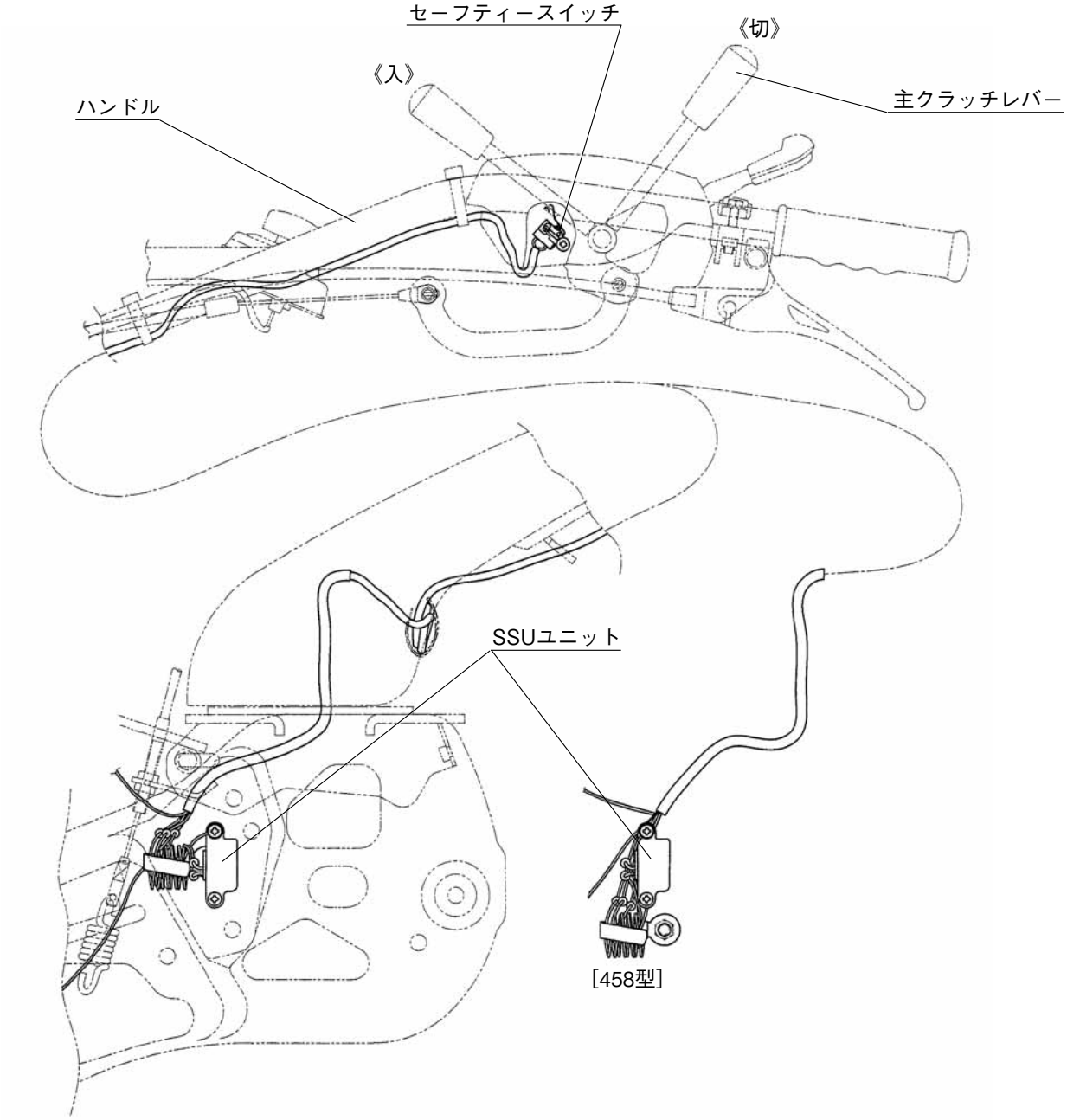
⚠警告 火傷や傷害事故防止のために

◆作業中に不調が発生した場合は本機を広い平坦な場所に停車し、エンジンを止め、各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備は、エンジンが冷えてから行なってください。
◆取外したカバーはすべて取付けてからエンジンを始動してください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難	❶ 燃料が入っていない。	・燃料を補給します。	28
	❷ 燃料コックレバーが《止》の位置になっていないか。	・燃料コックレバーを《出》の位置にする。	12
	❸ スロットルレバーの位置はよいか。	・スロットルレバーを始動位置《•》印部にします。	4 13
	❹ 点火プラグが湿っている。	・チョークを《閉》のままにしすぎると、点火プラグが湿りがちとなるので点火プラグを外しよく乾燥させます。	30
	❺ 点火プラグの火花が出ない。または出ても弱い。	・点火プラグの電極スキマを調整します。 ・点火プラグのカーボンを掃除します。 ・点火プラグを新品と交換します。 使用点火プラグ NGK－BP6HS［458・558・658・708型］ NGK－BP5ES［758・858・1058型］	30
	❻ チョークレバーが《開》になっている。	・チョークレバーを《閉》にし、エンジン始動後徐々に戻します。	4 13

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難	❼ エンジンスイッチが《**停止**》になっている。	・エンジンスイッチを《**始動**》位置にします。	4
	❽ 主クラッチレバーが《**入**》になっている。	・主クラッチレバーを《**切**》位置にします。	6
	❾ SSU、セーフティスイッチが故障している。	・点火プラグ点検時火花が出ないときは、SSU、セーフティスイッチの故障が考えられるので「**お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所**」に相談する。	41



[458型]

[558・658・708・758・858・1058型]

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
エンジンの出力不足および自然停止	❶　エアクリーナーにゴミがつまっている。	・エレメントおよびオイルカップを灯油で洗浄し、エレメントから点滴しない程度に振切り、エンジンオイルをオイルカップのオイルレベルラインまで入れます。	30
	❷　リコイルスターターの吸気口がつまっている。	・きれいに掃除をします。	31
	❸　エンジンオイルが減っている。	・エンジンオイルを規定量補充する。 ・エンジンオイルが古くなっているときは新しいオイルと交換します。	27 28
	❹　エンジンの圧縮がない。	・ピストンリングの摩耗などが考えられるので**「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」**に相談してください。	―
	❺　エンジンの冷却フィンに泥などがつまっている。	・きれいに掃除をします。	―
	❻　エンジンの回転が十分あがらない。	・スロットルレバー・ワイヤー取付部にゆるみはないか、セットはよいか点検します。	34、35
	❼　作業機が適していない。	・作業機が大きくないか、回転速度は適正か点検します。	21、23、24

2. 本　機

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
各部に振動が多い	❶　エンジンが振動している。	・エンジン取付ボルトを点検し、ゆるんでいれば増締めします。	―
	❷　ハンドルが振動している。	・ハンドル上下調節レバー、ハンドル回動レバーを点検し、ゆるんでいれば締込みます。	21、35、36
主クラッチレバーを操作しても走行しない	❶　Ｖベルトが伸びてスリップしている。	・Ｖベルトの張り調整をします。	32、33
	❷　主クラッチワイヤーが伸びている。	・主クラッチワイヤー調整をします。	
サイドクラッチレバーを操作しても旋回性能が悪い	❶　サイドクラッチワイヤーが伸びてサイドクラッチレバーの遊びが多い。	・ワイヤー調整をする。	33、34

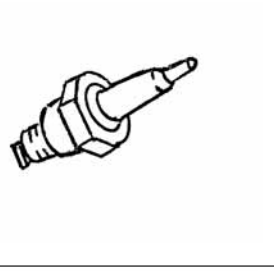
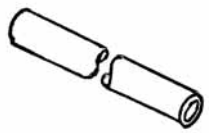
付　　表

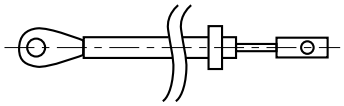
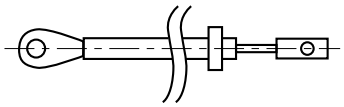
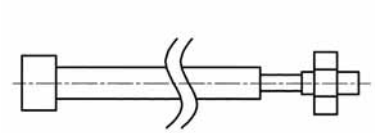
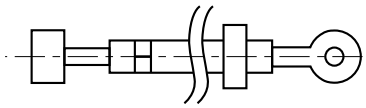
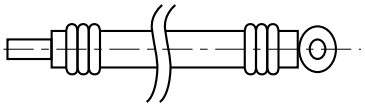
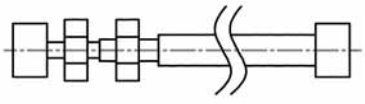
1．主要諸元

商品名		MM458A		MM558A			MM658A	MM708A	MM758A		MM858A		MM1058A	
型式名		MM1403		MM1401				三菱 MM707S	MM1402					
区分		S	G	S	G	L(G)	S(G)	S	S	SL	S	SP	S	SP
本機寸法	全長（mm）	1530		1560					1630					
	全幅（mm）	660		700										
	全高（mm）	1080		1075		1110			1130	1150	1155		1160	1155
本機質量（kg）		65		75		78		80	101	105	109		106	109
エンジン	型式名	GB130L		GB181L				GB221L	GB290L				GB300L	
	種類	空冷４サイクルOHV式ガソリンエンジン												
	総排気量（L{cc}）	0.126{126}		0.181{181}				0.215{215}	0.296{296}					
	出力/回転速度（kW{PS}/rpm）《 》内は最大出力	2.3{3.1}／1800《3.0{4.2}》		3.0{4.2}／1700《4.2{5.7}》			3.4{4.7}／1800《4.6{6.3}》	3.7{5.0}／1800《5.1{7.0}》	3.7{5.0}／1500《5.5{7.5}》		4.4{6.0}／1800《6.3{8.5}》		5.5{7.5}／1800《7.7{10.5}》	
	燃料タンク容量（L）	2.8							4.0					
	始動方式	リコイル式												
走行部	タイヤ	φ330×幅100（100／85D6）				4.00－7				4.00－8	φ448×幅205（17×8.00－8）		4.00－9	φ448×幅205（17×8.00－8）
	輪距（mm）	180～370（3段）	200～490（8段）	180～370（3段）	200～490（8段）			210～500（8段）	190～600（12段）		330～600（10段）		270～660（11段）	330～600（10段）
	主クラッチ形式	ベルトテンション式												
	操向クラッチ形式	特殊ボール式爪クラッチ												
	走行変速段数（段）	前進６、後進２						前進４、後進２	前進６、後進２					

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品

No.	部品交換		部品番号	外観形状
1	点火プラグ	458型 558型 658型 708型	NGK－BP6HS	
		758型 858型 1058型	NGK－BP5ES	
2	Vベルト	458型	0852 1400 041（SB－41）	
		558型	1400 0257 000（SB－44）	
		658型	1400 0254 000（SB－45）	
		708型	1400 0253 000（SA－43）2本	
		758型	1400 0254 000（SB－45）2本	
		858型 1058型	1407 0204 000（SB－44）2本	
3	ホース （タンク～ストレーナー）	458型 558型 658型 708型	0981 0080 450	
		758型 858型 1058型	0981 0080 420	
4	ホース （ストレーナー～キャブ）	458型 558型 658型 708型	KF70 058A A	
		758型 858型 1058型	P051 Y04X 140	
5	オイルシール （車輪）	458型 558型 658型 708型	1426 1259 000	
		758型 858型 1058型	3515 2261 001	
6	ホイルチューブピン	458型 558型 658型 708型	0562 1108 055	
		758型 858型 1058型	0560 0110 050	

No.	部品交換		部品番号	外観形状
7	スナップピン	458型 558型 658型 708型	0521 0108 000	
		758型 858型 1058型	0521 0110 000	
8	ワイヤー (主クラッチ)		1400 2108 001	
9	ワイヤー (ブレーキ)		1406 1702 000	
10	ワイヤー (サイドクラッチリンク部)	458型	1496 2153 000	
		558型 658型 708型	1496 2154 000	
		758型 858型 1058型	1497 2153 000	
11	ワイヤー (サイドクラッチレバー部)	458型	1496 2161 000	
		558型 658型 708型 758型 858型 1058型	1496 2162 000	
12	ワイヤー (スロットル)	458型 558型 658型 708型	1429 2154 000	
		758型 858型 1058型	1426 2202 000	
13	ワイヤー (ハンドルジョウゲ)		1401 1931 003	

※ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3. 潤滑油について

・オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイル

メ　ー　カ		商　品　名
三菱農機純正油		スーパーマルチＳＴＯＵ（ストー）オイル (SAE10W－30､SD/CD/GL－4)
全　農	ガソリン用	クミアイエンジンオイル
JX日鉱日石エネルギー	ガソリン用	プライマリー(SAE10W－30､SL)
		ジェネシスモーター (SAE10W－30、SL/CF)

2. ギヤオイル

メーカ名	商　品　名
三菱農機純正油	スーパーマルチＳＴＯＵオイル (SAE10W－30、SD/CD/GL－4)
	スーパーマルチＧＢオイル (SAE80W、GL－4)
全　農	クミアイギヤオイル（SAE80W）
JX日鉱日石エネルギー	ファームギヤＢ（SAE80W、GL－4） ファームユニバーサル (SAE10W－30、SD/CD/GL－4)

・またはＡＰＩサービス分類ＳＤ級以上10W－30をご使用ください。

・スーパーマルチＳＴＯＵオイルまたはＳＡＥ10W－30は気温20℃以上でご使用の場合は、オイルの消費量が増すことがありますので、**「運転前の点検」**を行なってください。

4. 付属部品一覧表

No.	部　品　名　称	個数	備　　考
①	取扱説明書	1	
②	保証書	1	
③	プラグレンチ	1	

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の商品名と機械番号（製造番号）は…？

商 品 名（区　　分）

機械番号（製造番号）

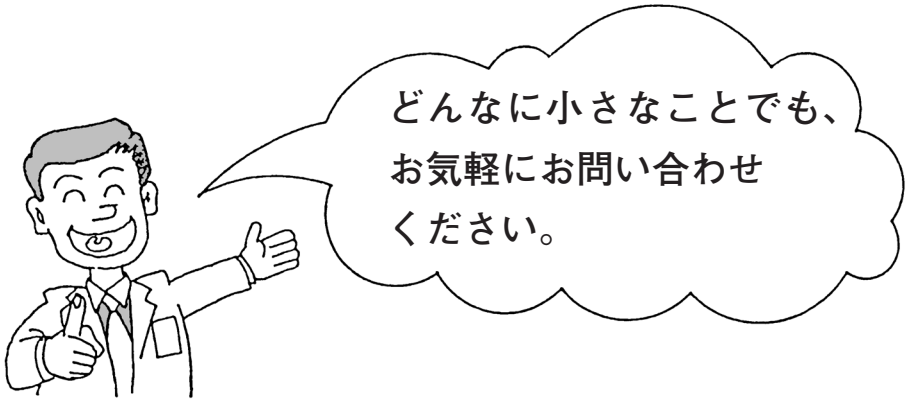
●ご使用状況は…？

（何速で、どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）